

生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン) 3か年(平成23~25年度)の振り返り



平成26年9月
横浜市環境創造局

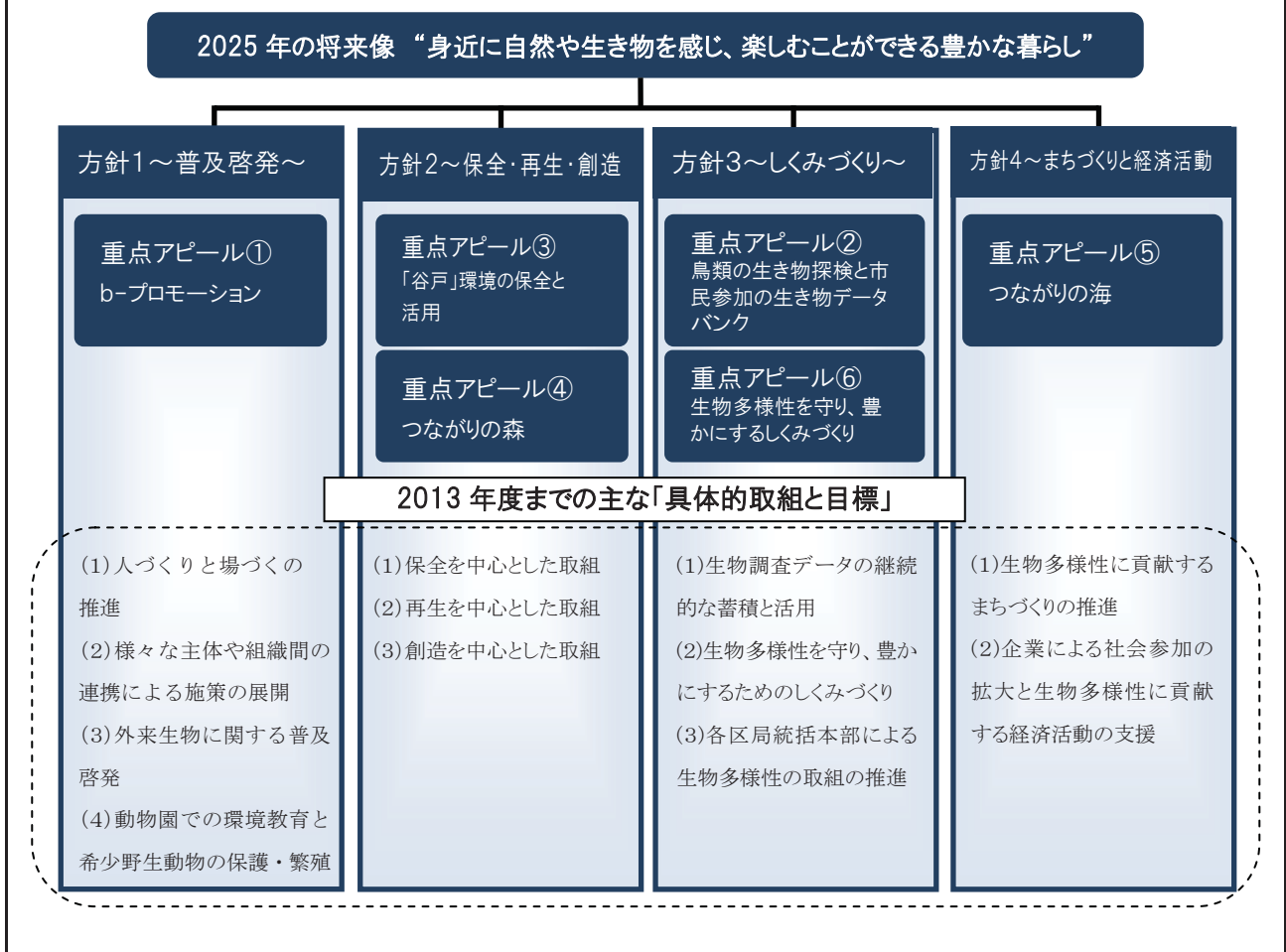


横浜市生物多様性キャッチフレーズ

横浜市は、人口約 370 万人の大都市でありながら、身近な場所に豊かな自然が残されています。そして、それを街の魅力ととらえ、守り・育て・楽しむ活動が市民や学校・企業等により活発に行われています。このような横浜市の特性を踏まえ、生物多様性基本法に基づく地域戦略である「生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）」を平成 23 年 4 月に策定・公表しました。

生物多様性横浜行動計画(ヨコハマbプラン)は、2025 年度（平成 37 年度）を目標年度とし、将来像を「身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし」としました。中長期的な目標である「将来像」とこれを実現するための重点施策「6つの重点アピール」、「4つの取組方針」と、2013 年度までの主な「具体的取組と目標」から構成されています。

策定から 3 年余りが経過し、2013 年度までの主な「具体的取組と目標」の計画期間が終了したことから、これまでの取組について評価・検証を行いました。



目次

1 はじめに（全体総括）	2
2 重点基本施策～6つの重点アピール～	3
3 将来像の実現に向けた4つの取組方針	10
4 各取組項目の評価・検証	15

1 はじめに（全体総括）

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）策定時は、「生物多様性」という言葉の認知度も低く、まずはその意味を伝える普及啓発を含めたプロモーションに力を入れて取り組んできました。プロモーションは、普及啓発のほか、環境教育、活動支援を中心に進め、市民、企業の皆様と連携しながら自然環境や生き物への理解を深める取組を進めてきました。その結果、生物多様性について、一定の認知は得られたものの、まだ引き続き、取組が必要な段階です



梅田川での生き物調査

生き物調査についても、市民参加型で行うことで、普及啓発の効果が得られます。生物多様性の現状を理解するための生き物データの充実との両面の効果を狙って調査を行ってきました。特に市内の小学生による生き物調査が始まったことにより、その成果が見え始めています。



小学生生き物調査 調査票

また、横浜つながりの森における取組、谷戸環境を活用した取組、つながりの海に位置づける沿岸海域での取組など、それぞれの環境をいかした普及啓発や保全の取組を進めました。また、みどりアップ計画を中心とした樹林地、農地の保全・再生・創造の取組を進めたことで、樹林地の減少傾向が鈍化するなど、緑の総量維持に一定の成果が見られます。

生物多様性横浜行動計画（ヨコハマbプラン）の主旨である、子どもたちの自然体験の機会を増やしていくこと、自然体験の場であり、生き物の生息・生育の場である自然環境を次世代に引き継いでいくことを進めるためには、これらの取組を継続することが重要です。



緑地の指定
川和特別緑地保全地区(都筑区)

“身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし”

の実現に向け、引き続き生物多様性の保全の取組を推進していく必要があります。

2 重点基本施策～6つの重点アピール～

1 b-プロモーション

(1) 取組結果

「環境教育出前講座・生物多様性でYES!」、「横浜市環境保全活動助成金」「横浜環境活動賞」を中心に、プロモーションを展開しました。実施にあたっては、「子どもを主役」とした取組を重点に置いて進めました。

■環境教育出前講座・生物多様性でYES 開催実績

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
開催回数	123	115	118
参加人数	10,053	10,135	10,228

■b-サポーターズ（出前講座講師）登録状況

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
市民団体等	11	20	24
企業等	4	8	10
計	15	28	34

■環境保全活動助成金交付実績

平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
8	744 千円	11	966 千円	10	838 千円

■環境活動賞表彰実績

	第 19 回	第 20 回	第 21 回
市民団体・個人	5	9	8
企業	3	9	6
児童・生徒・学生	3	4	4
計	11	22	18
生物多様性特別賞	2	1	1
（応募総数）	20	27	23

※第 19 回は、平成 23 年度に、第 20 回は、平成 24 年度に審査・表彰式を実施しました。
第 21 回は、平成 25 年度に審査、平成 26 年度に表彰式を実施しました。



環境教育出前講座・
生物多様性でYES!



環境保全活動

ア ヨコハマbフェスティバル

平成24年度には、生物多様性自治体ネットワーク定期総会の横浜開催と横浜市の代表選出、それに伴う「第2回生物多様性全国ミーティング」の開催にあわせ、普及啓発キャンペーン「ヨコハマbフェスティバル」を開催しました。開催にあたっては、様々な市民団体、企業、NGOなど連携・協働しながら企画・実施しました。



第2回生物多様性全国ミーティング

■ヨコハマbフェスティバル・コアイベント開催実績

ヨコハマbデイ 2012	
日時・会場：10/27（土）13:00～17:00 情文ホール 主催：一般社団法人CEPA ジャパン／共催：横浜市環境創造局他 概要：有識者による基調講演、対談、事例発表と活動現場からの生中継、映像上映、ワークショップなど。	
生物多様性自治体ネットワーク定期総会・ミニフォーラム	
日時・会場：11/3（土・祝）10:00～12:00 みなとみらい21 プレゼンテーションルーム 主催：生物多様性自治体ネットワーク・横浜市環境創造局 概要：【総会】新役員選出（代表：横浜市）、事業計画承認ほか／【ミニフォーラム】有識者による基調講演、会員自治体による事例発表	
第2回生物多様性全国ミーティング	
日時・会場：11/3（土・祝）13:30～17:30 はまぎんホール・ヴィアマーレ 主催：国連生物多様性の10年日本委員会・環境省／共催：横浜市環境創造局 概要：横浜市長によるプレゼンテーション、式典、主催者事業の紹介、全国の活動団体による事例発表、ワークショップなど。	
ヨコハマ環境行動フェスタ 2012	
日時・会場：11/3（土・祝）11:00～17:30 クイーンズスクエア横浜 主催：横浜市環境創造局 概要：【ステージ】ミス日本・水の天使による「下水道クイズ」、市長出席による「こども『エコ活。』大作戦！2012 結果発表会」、動物園クイズ、環境活動団体による発表、パネル展示等／【ワークショップブース】13の環境活動団体、環境科学研究所等によるブース出展	

■ヨコハマbフェスティバル特設ホームページ概要

概要	コミュニティ系NPOに作成・運営を委託。イベント登録・閲覧システムや写真・動画の投稿、ニュース・レポート記事等を掲載。また、SNSとの連動も行った。		
登録イベント数	34	掲載記事数	15
写真投稿数	56	アクセス件数	7,149
動画投稿数	8		

イ 企業活動との連携

環境活動賞企業の部やb-サポーターズの公募、ヨコハマbデイ（発表・交流会）、京浜臨海部の活動支援（トンボはドコまで飛ぶかフォーラム）、市内事業者が組織する横浜市環境保全協議会の広報活動等を通じて、企業取組の活性化に向けた支援を行いました。



ヨコハマbデイ2013・春

ウ 国内自治体との連携

横浜市は「生物多様性自治体ネットワーク」の第2期代表を努め（平成24年11月～平成25年11月）、2010年の第10回生物多様性条約締約国会議（COP10）で採択された愛知目標の達成に向け、取組を進めました。

「国際生物多様性の日」（5月22日）には、生物多様性関連イベントを一斉広報するキャンペーンを実施するなど全国の自治体と連携し取組を進めました。

また、「多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議」では、関係する13自治体において、多摩・三浦丘陵を中心とした緑や水景の「保全・再生・創出・利活用」に関する取組を連携して実施し、生物多様性をふまえた緑と水景の広域的ネットワークの構築を推進しています。



生物多様性自治体ネットワーク
定期総会

エ 世界に向けたアピール

平成24年6月にブラジル・リオデジャネイロで開催された「地球サミット・リオ+20」でのパネル展示や10月にインド・ハイデラバードで開催された「生物多様性条約第11回締約国会議（COP11）」での国連大学高等研究所による事例発表等を通じて、国際社会に横浜の取組をアピールしました。

（2）評価と課題

「出前講座」「助成金」「表彰制度」を中心に据え、第2回生物多様性全国ミーティングの開催など全国的な動きを捉えたプロモーションを市民団体・企業等と連携しながら実施することができました。それぞれの事業は、環境全般を対象としたものでしたが、「出前講座」のメインテーマを「生物多様性」と設定するなど制度の改定を実施しました。

また、生物多様性自治体ネットワークにより、国内自治体が相互に生物多様性の保全や持続可能な利用に関する取組や成果について情報発信するとともに、bフェスティバルなどによる市内横断的な広報に取り組みました。

今後も、引き続き子どもに向けたプロモーションを軸に、市民団体・企業等との連携をより充実・深化させることにより、さらに効果的なプロモーションを進めていく必要があります。

2 鳥類の生き物探検と市民参加の生き物データバンク

（1）取組結果

市民が気軽に野鳥に触れ合い、野鳥観察を通して生物多様性を実感するためのツールとして、「ミニミニ野鳥図鑑」を（公財）日本野鳥の会との協働により発行し、公園レストハウス等や希望する市内小学校に配布しました。

さらに、小学校において、「ミニミニ野鳥図鑑」をした授業を展開するため、専門家の派遣による出前講座を実施しました。

また、市内の生物調査結果の活用方法・データバンク構築の検討を進めました。定期的な陸域の生物相調査を開始するとともに、平成 25 年度から市民協働生物調査として小学校との連携による生物調査を実施し、約 10,000 人以上の児童が参加しました。

さらに、大学や企業など産官民学連携によるプロジェクトに参画し、生物調査の活用に向けた検討を進めています。



ミニミニ野鳥図鑑を活用した授業

（2）評価と課題

生物多様性の取組を推進するためには、生物情報の収集・整理・分析・発信・活用を進めることが重要です。

そこで、市内に蓄積した情報のデータバンク構築に取り組むとともに、平成 25 年度から開始した小学校との連携による生物調査を実施することにより、調査を通じて地域の自然や生き物への関心を高めていただくとともに、生物多様性保全に資する基礎データを取得することができました。この調査を継続することで、経年変化を把握していきます。また、情報収集や分析・発信を進めるため大学や企業などとの連携をより積極的に進めていく必要があります。

3 『谷戸』環境の保全と活用

（1）取組結果

農家や学校などと連携した田んぼの生きもの調査（新治）を 23 年度に試行実施し、24 年度には、市内 6 か所、25 年度には、3 か所で調査を実施しました。

谷戸への理解を深めるため、イベントでの里山環境や市民の森の PR を行いました。また、職員向けには、谷戸の現場を活用し、生物多様性や谷戸環境の大切さを伝える研修を実施しました。

さらに、谷戸環境の保全のため、「横浜みどりアップ計画」により、農業施策の拡充を推進しています。



田んぼの生きもの調査の様子

(2) 評価と課題

市民参加による調査手法を用いた田んぼの生きもの調査の取組を、谷戸の理解を深めるために活用していきます。また、イベントなどの様々な機会を通じて、生きもの
の生息・生育場所である谷戸環境や里山文化の普及啓発、認知度向上に取り組んでい
く必要があります。

4 つながりの森

(1) 取組結果

ア 構想策定

「横浜つながりの森」エリアとして位置づけられる円海山の周辺や、「いたち川」、
「小柴」などの地区は、多様な生き物が生息している横浜の生物多様性の宝庫とい
えます。

「横浜つながりの森」構想における取組は、
現在行われている活動や事業を強力に推進す
るとともに各活動や事業の連携により、保全と
活用のバランスを保ちながら、相乗効果を高め
ていくことが重要です。



横浜つながりの森エリア内の緑地
(横浜自然観察の森)

その認識の下、市民参加によるワークショッ
プや市民意見募集などを経て、2つの基本方針
「生き物の多様性を大切にする」「自然を楽し
む」を柱とした構想を、平成24年7月に策定
しました。

イ 構想策定の流れ

平成23年12月

～平成24年2月

学校、市民団体、企業などを対象としたアンケート実施

平成24年3月

市民参加によるワークショップ開催（2回）

5月～6月

市民意見募集

7月

構想策定



ワークショップの様子



シャトルバスの運行

ウ 構想に基づく取組

「横浜つながりの森」マップや六国峠ハイキングマップの作成、各主要施設でのスタンプラリーを開催し、市民が自然環境を守り、楽しむことやマナー・ルール作りについて周知しました。また、地産地消モデルツアーの実施や拠点施設を回遊するシャトルバスの運行など横浜つながりの森の魅力アップを目指した取組を進めました。

（2）評価と課題

「横浜の生物多様性の宝庫である「横浜つながりの森」を市民全体で、体感・感動し、次代、次々代につないでいく」ことを将来像として掲げ、「生き物の多様性を大切にする」と「自然を楽しむ」を2本の柱として、取組を推進しています。

ワークショップや市民意見募集などにより市民や活動団体の意見を反映した構想を策定し、区局連携した取組をスタートすることができました。引き続き、構想に掲げた取組を着実に推進するとともに、森を支えている市民団体・拠点施設のつながりの強化、人材の育成を進めていく必要があります。

5 つながりの海（きれいな海づくり）

（1）取組結果

浅い海域を活用した水中生物の生息環境の改善や石で覆われた海岸である礫浜を活用した水質浄化の取組、海岸の保全や美化に向けた取組などについて、市民団体などと連携して行っています。

山下公園前では、民間企業との共同研究による生物生息環境の改善効果を検証する研究を開始しました。また、世界トライアスロン大会プレイベントであるグリーントライアスロンにおいて本事業のPRを行いました。

末広地区では、北部下水道センター前面の礫浜を活用するために、冬場の生物調査や水質調査等を実施しました。

野島海岸では、地元で活動する市民団体と連携した海岸の保全や美化に向けイベント実施や意見交換による現状把握を実施しました。



二枚貝による水質浄化展示

（2）評価と課題

付着性生物に配慮した護岸構造や藻類の定着に配慮した浅場形成などの検討を行うとともに、関係機関との調整を進める必要があります。また、今後は、海域の環境改善について企業等との連携の可能性についても検討していきます。

また、歴史・文化との関わりを含め、多くの市民が自然の海を感じられる場所を目指して、市民団体等と連携した海づくり活動を進める必要があります。

6 生物多様性を守り、豊かにするしくみづくり

（1）取組結果

「生物多様性」の視点でまちづくりと連動した保全・誘導を行うためには、生物が生息・生育するための条件などを評価する必要がありますが、その評価手法が確立されていません。平成 24 年度には、国連高等研究所と共同で国連とシンガポール政府が中心となって開発した、都市における生物多様性の状況を客観的に評価するための指標である「C B I（都市の生物多様性指標）」を横浜において適用しました。また、平成 25 年度には、都市におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関する事例調査を実施するなど、施策につなげていく仕組みづくりについて検討を行いました。



国連大学高等研究所で開催された
ラウンドテーブルセミナー

（2）評価と課題

国連大学高等研究所や国土交通省と連携し、生物多様性指標づくりに着手し、課題を整理しました。まだ課題は多く、今後も継続的な生物相調査の実施、調査結果データの蓄積が必要です。また、国における生物多様性指標の検討状況等について注視していきます。

3 将来像の実現に向けた4つの取組方針

取組方針1 普及啓発

～誰もが都市生活の中で、自然や生き物に親しみ、実践できる取組をすすめます～

(1) 取組結果

人づくりを進めるため、出前講座や活動助成、表彰制度に取り組んだほか、森づくりボランティアや援農ボランティアの育成事業、環境教育実践推進校の指定、発表・交流会の開催などに取り組みました。

また、場づくりとして森に関する情報発信や森を知り親しむ行事等を開催するウェルカムセンターを平成24年度に、新治里山公園にいはる里山交流センター（緑区）、横浜自然観察の森自然観察センター（栄区）、平成25年度に、寺家ふるさと村四季の家（青葉区）、舞岡ふるさと村虹の家（戸塚区）、環境活動支援センター（保土ケ谷区）を整備しました。

さらに、多くの人が集まるみなとみらい地区において「環境行動フェスタ」や「食と農の祭典」等を開催し、市民団体や農家、企業、教育機関等が連携しながら多くの人々にアピールを行いました。また、動物園内においても来園者に向けて、生物多様性に関するPRを実施しました。

また、これまで取り組んできた海外の希少動物に加え、日本産希少動物や横浜市に生息する希少な野生動物の飼育・繁殖に取り組みました。



こどもエコフォーラム

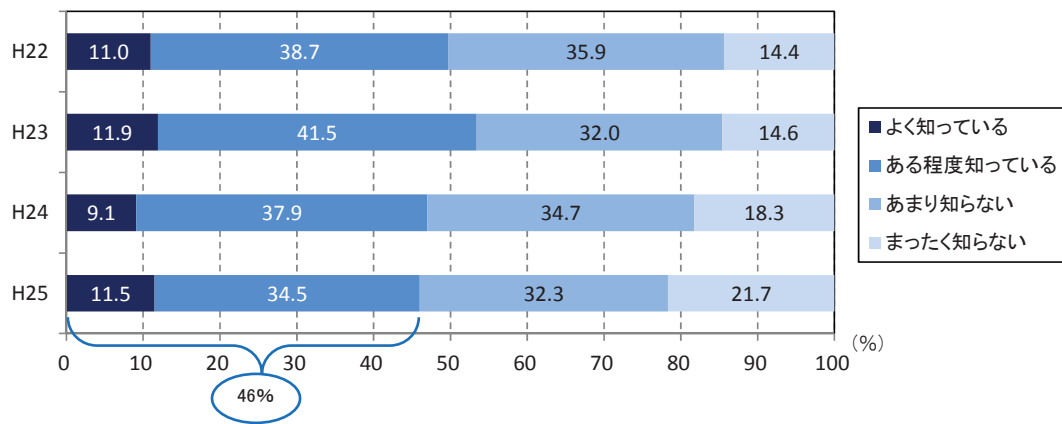


横浜自然観察の森 自然観察センター
（栄区）

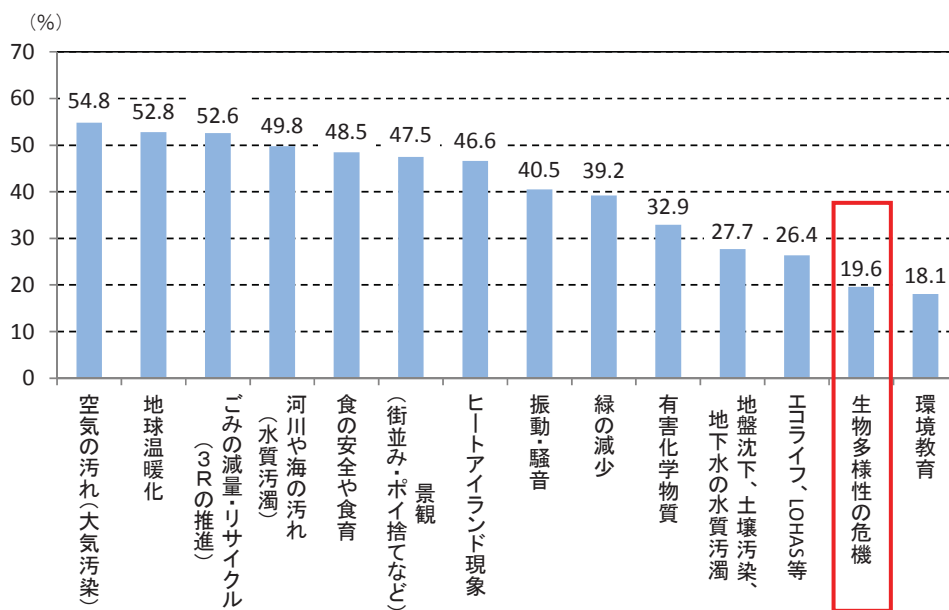
(2) 評価と課題

平成25年7月に実施した「環境に関する市民意識調査」では、生物多様性という言葉が「よく知っている」「ある程度知っている」という人が46%でした。過去4年間の平均から、約半数の市民が生物多様性という言葉を知っており、一定の浸透が図られているものの、プロモーションの成果が表れているとは言い難い状況です。市内には3,800を超える環境関連の市民団体が活動しており、さらなる連携・協働を進めることができれば、より効果的なプロモーションが可能です。市民団体・企業等との連携を充実させ、さらに効果的なプロモーションを進める必要があります。

【環境に関する市民意識調査】



「生物多様性」という言葉の認知度
 (『環境に関する市民意識調査』(平成 22～25 年度)より)



関心のある環境問題や環境活動(複数回答)
 (『環境に関する市民意識調査』(平成 25 年度)より)

取組方針 2 保全・再生・創造

～地域の特性に応じた保全・再生・創造の取組をすすめます～

（1）取組結果

ア 保全を中心とした取組

「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」に基づき、緑地保全制度による指定地区の拡大や保全管理計画の策定、民有樹林地の維持管理に対する助成など、樹林地の保全を進めました。

また、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」における、特定外来生物であるアライグマやタイワンリスによる生活被害対策に取り組みました。



今宿町特別緑地保全地区
（旭区）

イ 再生を中心とした取組

公園、水辺、道路、樹林地などの維持活動に取り組んでいる愛護会などに対して、活動費の一部助成や用具の提供・貸出し、ノウハウの提供等の支援を実施しました。また、区ごとに交流会を実施するなど、団体相互の意見交換などを進めました。

生物多様性に配慮した公園・河川・遊水池の整備や維持管理に取り組みました。

また、小学校へ専門家を派遣し、ビオトープづくり及び活用を支援しました。



生物多様性に配慮した管理
玄海田公園（緑区）

ウ 創造を中心とした取組

「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」に基づき、地域緑化計画の策定や保育園・小中学校の園庭・校庭の芝生化、屋上・壁面緑化に対する助成など、市街地で緑のまちづくりを進めました。

さらに、京浜臨海部の事業者等と協働して、植栽を行うなど市民に身近な緑の環境づくりを進めました。都心部では、グランモール公園の再整備に向けた基本計画の策定や、建替えを予定している3区庁舎などで「実感できる緑」を創出するため、計画策定や設計などを進めました。



地域での緑づくり（鶴見区）

（2）評価と課題

みどりアップ計画を中心とした各種事業により多くの樹林地・農地の保全・再生・創造を進めることができました。谷戸や樹林地、身近な緑が持っている生き物の生息・生育空間としての役割や景観保全の役割を理解してもらうことで、保全と活用を推進していく必要があります。

取組方針3 しくみづくり

～保全や評価などに取り組むしくみづくりをすすめます～

（1）取組結果

陸域・河川域・海域におけるモニタリング調査を実施し、その結果を分析・検証しました。一部データについて公開を開始しました。

横浜市役所内の生物多様性の取組として、「横浜市 1S0 環境マネジメントシステム」を用い、各区局が生物多様性の保全に資する目標を掲げる仕組みを構築しました。具体的には、各区局の環境行動目標に、地球温暖化対策、3Rに加え、生物多様性の取組推進の項目を設けました。

また、生物多様性について知り、業務の中で取組をすすめるヒントとしていくため、生物多様性に関する専門家を招いた職員向け研修会を実施しています。



雨水調整池における維持管理研修会

（2）評価と課題

陸域・河川域・海域の生物調査を実施しました。今後も、陸域・河川域・海域で専門家による定期的な生物相調査を継続的に行い、データを蓄積していくとともに、市民参加による生き物調査を進めていく必要があります。蓄積されたデータと地域特性による、生物多様性の保全・再生・創造のしくみの検討が必要です。市役所が率先して取り組んでいくため、庁内向けの啓発をさらに推進し、市のあらゆる施策に生物多様性の視点を加え、生物多様性の主流化を進めていく必要があります。

取組方針4 まちづくりと経済活動

～生物多様性に貢献するまちづくりや経済活動の支援をすすめます～

(1) 取組結果

横浜駅周辺における地球温暖化対策及びヒートアイランド対策のルール策定に向けた取組や、みなとみらい21地区における低炭素技術の導入など、都心部におけるエコまちづくりが進められました。また、建築物対策では、脱温暖化モデル住宅事業を実施し、環境に配慮した建築物の普及が進められました。桜木町駅前広場街路樹やみなとみらい3・5号線街路樹の植栽工事を実施しました。



桜木町駅前広場の街路樹(H26. 7月)

企業による社会参加の拡大と生物多様性に貢献する経済活動の支援としては、環境取組に積極的な企業の実践紹介や表彰、連携・交流の場づくりを進めました。また、農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルの構築を目指し、企業等からの地産地消の提案事業に対し、支援しました。



地場野菜を使った地産地消惣菜店

(2) 評価と課題

「環境未来都市・横浜」の実現に向けて、水や緑空間が創出され、生き物を身近に感じることができる、都心の街並みと海・川をいかした豊かな環境のあるまちづくりを進めていく必要があります。

また、企業との連携を推進し、環境分野の技術・商品による新たなビジネスモデルの構築による経済活動の活発な展開や、生物多様性につながる環境分野の取組の促進につなげていく必要があります。

さらなる発展へ～bプラン活動単位版（仮称）～

活動単位版（仮称）については、市民団体、地域、企業、学校など様々な主体が様々な場ごとに、相互に連携しながら作成する行動計画です。環境保全活動助成金や環境活動賞などをはじめとする連携・交流の場の充実や先進的な取組情報の発信・蓄積などを進めていくことが必要です。引き続き、活動単位版につなげる仕組みを検討していくことが必要です。



環境活動賞受賞者による交流会の様子

5 各取組項目の評価・検証

方針1. 普及啓発		3か年の評価	方針2. 保全・再生・創造		3か年の評価
(1)人づくりと場づくりの推進			(1)保全を中心とした取組		
横浜生き物応援団の結成【重点アピール1】		○	市民の守りたい、伝えたい谷戸環境の選定【重点アピール3】		△
生物多様性に配慮した消費行動【重点アピール1】		○	横浜における水田生態系の研究・活用【重点アピール3】		○
環境行動フェスタの開催【重点アピール1】		○	庁内横断による谷戸環境の積極的活用【重点アピール3】		○
横浜型エコツーリズム等観光需要の取り込み(ニューツーリズム振興事業)【重点アピール1】		○	「恵みの里」など市民の農体験の場の提供【重点アピール3】		○
森の楽しみづくり事業		○	市民参加による構想計画の策定【重点アピール4】		○
市民の森などの広報		○	森を支えている活動団体のつながりの強化【重点アピール4】		△
生物多様性でYES!【重点アピール1】		△	拠点施設の強みをいかした連携の強化【重点アピール4】		○
環境教育実践推進校		○	瀬上池の未来づくり【重点アピール4】		○
市民農業大学講座		○	エコ森プロジェクトの推進【重点アピール4】		○
担い手コーディネーターの育成・派遣		◎	緑地保全制度による地区指定の拡大と買取り		△
活動団体への活動支援【重点アピール1】		○	市民協働による緑地維持管理事業		○
樹林地管理団体活動助成事業		◎	水田の保全・活用の推進		○
事例発表会・交流会・合同研修会の開催【重点アピール1】		○	集团的農地の維持管理奨励		◎
連携・交流のプラットフォームづくり【重点アピール1】		○	特定外来生物の防除		○
ウエルカムセンターの整備		○	(2)再生を中心とした取組		
活動拠点の整備		○	生物多様性に配慮した公園整備		○
公園再整備等の推進		○	公園における順応的管理の推進		○
地産地消の推進		◎	生物多様性に配慮した河川・遊水池の管理		○
市民利用型農園の設置		◎	水辺拠点整備		○
農ある地域づくり		○	多自然川づくり		○
(2)様々な主体や組織間の連携による施策の展開			地域での水循環再生活動の促進		◎
多岐にわたる分野とのコラボレーションの推進【重点アピール1】		◎	公園愛護会・水辺愛護会との連携		△
連携・交流のプラットフォームづくり【重点アピール1】(再掲)		—	街路樹における樹種の配慮等		○
環境行動フェスタの開催【重点アピール1】(再掲)		—	(3)創造を中心とした取組		
自然環境などの地域資源を活用した体験プログラム		○	地域緑のまちづくり		△
食と農との連携事業		○	民有地緑化の誘導等		○
(3)外来生物に関する普及啓発			都心部の公園などでの緑の創造		○
普及啓発		△	屋上緑化の推進		○
(4)動物園での環境教育と希少野生動物の保護・繁殖			京浜の森づくり		○
動物園等における環境教育		○	身近な生き物に着目したまちづくり		○
希少野生動物の保護・繁殖		◎			
種の保存に関わる調査・研究		◎			

方針3. しきみづくり		3か年の評価	方針4. まちづくりと経済活動		3か年の評価
(1)生物調査データの継続的な蓄積と活用			(1)生物多様性に貢献するまちづくりの推進		
鳥類の生き物探検【重点アピール2】		○	エキサイトよこはま22における環境取組の推進		○
生物調査データの一元化(データベース化)と活用【重点アピール2】		○	みなとみらい 21 地区における環境取組の推進		○
市民協働生き物調査の推進【重点アピール2】		○	京浜臨海部の海づくり【重点アピール5】		○
水域における生物調査【重点アピール2】		○	都心臨海部の海づくり【重点アピール5】		○
(2)生物多様性を守り、豊かにするためのしきみづくり			金沢の歴史と文化の海づくり【重点アピール5】		○
地区特性に応じたしきみの検討【重点アピール6】		△	身近な生物に着目したまちづくり(再掲)		—
(3)各区局統括本部による生物多様性の取組の推進			(2)企業による社会参加の拡大と生物多様性に貢献する経済活動の支援		
横浜市 ISO 環境マネジメントシステムへの反映		○	企業の環境行動の広報		△
			企業の環境行動の表彰制度		○
			取組事例発表会・交流会・合同研修会の開催(再掲)		—
			企業とのコミュニケーション		○
			産学民官連携による共同研究		○
			食と農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルへの支援制度の創設		◎

3か年の評価	評価の基準	事業数
◎	当初の予定を上回る成果が得られた	10 事業
○	当初の予定通りの成果が得られた	52 事業
△	当初の予定よりやや遅れている	9 事業
×	当初の予定より大幅に遅れている	0 事業

取組名	横浜生き物応援団の結成 【重点アピール1】
-----	--------------------------

■取組内容

市民や企業へ生物多様性の大切さを伝えていくため、応援団を結成します。応援団メンバーの自らの経験や取組をメッセージとして広く伝えていきます。

■取組目標

2011年度に結成、以降推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	環境教育出前講座「生物多様性で YES!」の講師が b-サポーターズ (生きもの応援団) となり、生物多様性の大切さを小学校や地域住民に広く普及啓発しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	b-サポーターズ (生きもの応援団) を対象とした、スキルアップ研修を 2 回実施しました。登録数が 28 (市民団体 20 企業・機関 8)
平成 25 年度 (2013 年度)	b-サポーターズ (生きもの応援団) を対象とした、スキルアップ研修を 1 回実施しました。登録数が 34 (市民団体 24 企業・機関 10)

■3か年の評価

- ・応援団ではなくサポーターズという名称とし、公募制度をスタートさせることができました。
- ・環境教育プログラムを持つ企業と連携したスキルアップ研修によりサポーターズの持つ課題の確認やプログラムの復習、講座レベルの向上と b サポーター間の交流を図ることができました。

成果に対する評価	○
----------	---



b-サポーターズを対象とした研修会



b-サポーターズによる出前講座

■課題と対応

- ・ b-サポーターズ間の交流促進を進める必要があります。
- ・伝える側 (b-サポーターズ) の活動を充実させていくため、環境情報サイト「エコぼると」の活用や環境保全活動助成金制度、横浜環境活動賞の表彰制度などと連動させていく必要があります。

取組名	生物多様性に配慮した消費行動 【重点アピール1】
-----	-----------------------------

■取組内容

地産地消の推進、消費生活推進員等との連携による商品購入の啓発、生物多様性に配慮した原材料購入の取組の紹介など、啓発を進めます。

■取組目標

2011年度から推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	環境教育出前講座「生物多様性で YES!」を活用し、地産地消を含め生物多様性に配慮した消費行動を推進しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	環境教育出前講座「生物多様性で YES!」を活用し、地産地消を含め生物多様性に配慮した消費行動をさらに推進しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	・環境教育出前講座「生物多様性で YES!」や、イベントの場を活用し、地産地消を含め生物多様性に配慮した消費行動を推進しました。

■3か年の評価

- ・環境教育出前講座、MY 行動宣言の PR、イベント時のパネルを展示などにより、広く市民に生物多様性に配慮した消費行動を呼びかけることができました。
- ・横浜市環境保全活動助成金制度を活用し、地産地消等を目的とした市民団体の活動を支援し、活動を推進しました。

成果に対する評価	○
----------	---



地産地消に関する出前講座



消費行動団体あて出前講座

■課題と対応

- ・市民一人ひとりの消費行動が生物多様性の保全につながることを広く知ってもらう必要があります。地産地消やグリーン購入といった取組と連携し、生物多様性との関係性についてわかりやすく紹介していきます。
- ・市民に身近で、気軽に訪れることのできる図書館などと連携したキャンペーンを活用し、普及啓発を進めます。

取組名	環境行動フェスタの開催 【重点アピール1】
-----	--------------------------

■取組内容

市民、企業、活動団体などの参加により、環境について楽しく、分かりやすく学べるイベントを開催します。

■取組目標

毎年実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	みなとみらい地区の商業施設において、「食と農の祭典」との共同開催により、実施しました。 日時：平成 23 年 11 月 5 日(土) 場所：クイーンズスクエア横浜等 参加者数：約 4,500 人
平成 24 年度 (2012 年度)	みなとみらい地区の商業施設で、市民団体や行政によるステージイベントとワークショップを実施しました。 日時：平成 24 年 11 月 3 日(土) 場所：クイーンズスクエア横浜等 参加者数：約 4,500 人
平成 25 年度 (2013 年度)	みなとみらい地区の商業施設で、ステージイベント、ワークショップ等を実施しました。 日時：平成 25 年 6 月 15 日(土) 場所：クイーンズスクエア横浜等 参加者数：約 2000 人

■3か年の評価

- ・環境行動のきっかけづくりとするため、体験型ブースや参加型のステージを実施し、幅広い層にプロモーションすることができました。
- ・平成 25 年度から、6 月の環境月間に開催し、環境月間と一体的に広報を実施することができました。

成果に対する評価	○
----------	---



ステージイベントの様子



ブース出展の様子

■課題と対応

環境行動へのきっかけづくりから具体的な行動へつながるイベント内容を盛り込む必要があります。

取組名	横浜型エコツーリズム等観光需要の取り込み（ニューツーリズム振興事業） 【重点アピール1】
-----	---

■取組内容

緑豊かな里山や農地などの田園風景、また、横浜スマートシティプロジェクト等の先進的な環境面での取組など、地域の環境資源等をいかした横浜の魅力を観光面で活用し、シティプロモーションの一端を担います。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜つながりの森構想案策定の中で、豊かな緑を使ったエコツーリズムの検討を行いました。 ・横浜観光コンベンションビューロー観光資源開発部会での検討と事業を実施（実施事業：体験をテーマにした着地型旅行商品「体感！はまっ子旅くらぶ」）しました。また、「地産地消ツーリズム」の振興に向けたツアーガイドの育成を実施しました。（全7回）
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜つながりの森の魅力アップのためのシャトルバスを運行しました。（平成 24 年 10 月 27 日～11 月 25 日までの土・日・祝計 11 日間。運行本数 14 本/日。乗車人数 469 人。） ・横浜の農業や地産地消の取組や観光地としての魅力を発信できるツアーガイド育成講座を実施しました。（全7回） ・「横浜つながりの森」マップを作成し、各主要施設にマップ及び横浜つながりの森をPRするパネルを設置しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・「横浜つながりの森」マップ及び横浜つながりの森紹介パネルによりPRを実施した。また、六国峠ハイキングコースガイドマップを作成しました。 ・地産地消モデルツアーを実施しました。（3コース、全8回）

■3か年の評価

- ・拠点施設を結ぶシャトルバスを運行を試行したことで、回遊性が向上し、拠点施設を訪れるきっかけを作ることができました。また、各主要施設・市役所関係局区が連携して、「横浜つながりの森」マップ及び横浜つながりの森紹介パネルなどによるPRを実施することができました。
- ・H23・24年度に実施した地産地消ガイド育成事業で培った地産地消に関する知識と農家との関係を生かして、H25年度は育成したガイドによるモデルツアーを一般公募で実施したことにより、ニーズの把握や商品化に向けた検討を行うことができました。

成果に対する評価	○
----------	---



地産地消モデルツアー（金沢区）



地産地消モデルツアー（戸塚区）

■課題と対応

- ・森の魅力を伝える人材の育成や、文化財と横浜つながりの森の自然環境を結び付けたエコツーリズムの検討が必要です。
- ・育成したガイドの活用や地産地消ツアーの旅行商品化の検討が必要です。

取組名	森の楽しみづくり事業
-----	------------

■取組内容

保全・維持管理された森が、市民生活にとって楽しみとなるよう、森林教室など、利活用事業を推進します。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	森林教室など、利活用事業を推進しました。 ・生態系に配慮した植樹等 7.4ha (3 箇所) ・ウォーキングツアー 16 回 (580 人) ・プレイパークイベント 8 箇所 (169 人) ・森への関心を高める講座 83 (6,528 人) など
平成 24 年度 (2012 年度)	森林教室など、利活用事業を推進しました。 ・生態系に配慮した植樹等 5.1ha (4 箇所) ・ウォーキングツアー 19 回 (589 人) ・プレイパークイベント 6 箇所 (130 人) ・森への関心を高める講座 82 回 (6,815 人) など
平成 25 年度 (2013 年度)	森林教室など、利活用事業を推進しました。 ・生態系に配慮した植樹等 2.9ha (1 箇所) ・ウォーキングツアー 18 回 (395 人) ・プレイパークイベント 8 箇所 (178 人) ・森への関心を高める講座 83 回 (7,034 人) など

■3か年の評価

- ・多様な主体により開催した講座等に多くの市民の参加を得ることができ、樹林地の魅力や保全の意義について啓発・PRを進めることができました。
- ・体験型事業や情報発信などにより、市民が森に親しめる機会を増やすことができました。
- ・事業の啓発・PRの効果を高めるため、森づくり活動団体や企業等、さまざまな団体と連携した事業実施を推進しました。

成果に対する評価	○
----------	---



ウォーキングツアー (緑区)



プレイパークイベント (保土ケ谷区)

■課題と対応

- ・森に関わる市民の裾野を広げるため、森に関するイベントや講座の開催などにより、市民が森に関わるきっかけを継続して提供することや、横浜の森について理解を深めることができるようウェルカムセンターを活用し、情報発信することが必要です。

取組名	市民の森などの広報
-----	-----------

■取組内容

市民の森、樹林地のある公園、川の水辺拠点、農地など、多くの市民が利用し、楽しんでもらうという視点から、横断的に広報します。また、地域主体のイベントなどを体系的に広報します。

■取組目標

2011年度から順次実施

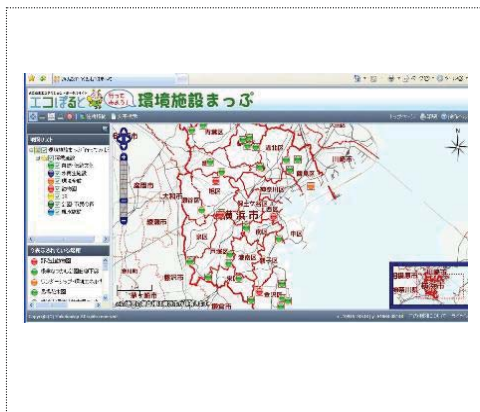
■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境月間（6月）に市内で行われるイベントを横断的にまとめ、ホームページやチラシで広報を行いました。 ・環境情報サイト「エコぼると」をリニューアルし、環境施設を紹介するためのコーナー「いってみよう！」の準備を進めました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境月間（6月）に市内で行われるイベントを横断的にまとめ、ホームページやチラシで広報を行いました。 ・環境施設を紹介するサイト「行ってみよう！」を新規で開設し、簡単に施設を検索できるようにしました。 ・ヨコハマbフェスティバル 2012 の期間中（平成 24 年 10～11 月）に開催する生物多様性関連イベントを特設ホームページからエントリーして、情報を一覧で公開しました。（関連イベント登録数：34 件）
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントや市のホームページを活用し、市民の森の魅力を伝えました。 ・金沢区が中心となって、六国峠ハイキングコースガイドマップを作成し、市民の森の広報を促進しました。

■3か年の評価

- ・市民にわかりやすい広報として、関連するイベントをまとめ、リーフレットやインターネットを活用し広く発信することができました。
- ・環境月間において、「行ってみよう！」を通じて、横断的な広報を実施する事ができました。

成果に対する評価	○
----------	---



環境施設マップ



横浜つながりの森
WINTEREVENT のチラシ

■課題と対応

- ・環境施設マップについては、登録情報の充実を図る必要があります。
- ・市内の環境イベントはイベントカレンダーにより、市民にPRしているが、登録についてさらにPRしていく必要があります。

取組名	生物多様性でYES! 【重点アピール1】
-----	-------------------------

■取組内容

生物多様性に関心を持ち行動するb-キッズを一人でも多く増やせるよう、出前講座など、様々な機会を通じて生物多様性に関する講座等を実施します。

■取組目標

130回(年間)

■主な事業実績

平成23年度 (2011年度)	YES(ヨコハマ・エコ・スクール)の枠組みを活用し、生物多様性をメインテーマにした出前講座を年間123回実施しました。 (提示型:30プログラム 100回実施 オーダーメイド型:23回実施) 講師を対象とした説明会:1回
平成24年度 (2012年度)	年間115回の出前講座を実施しました。また、出前講座の更なる拡大を目指し、プログラム内容の拡張を進めるとともに、講座講師が必要なスキルを学ぶための研修を実施しました。 (提示型:37プログラム 84回実施 オーダーメイド型:10団体 31回実施) 講師のスキルアップ研修:2回
平成25年度 (2013年度)	年間118回の出前講座を実施しました。また、出前講座の更なる拡大を目指し、プログラム内容の拡張を進めるとともに、講座講師が必要なスキルを学ぶための研修を実施しました。 (提示型:44プログラム 97回実施 オーダーメイド型:11団体 21回実施) スキルアップ研修:1回

■3か年の評価

- ・ヨコハマ・エコ・スクール(YES)の広報などを活用し、地域・学校・企業を対象に生物多様性や環境全般を学ぶ場の拡大が図ることができました。
- ・環境教育出前講座の開催回数は目標に届かなかったものの、毎年1万人を超える受講者を得ています。

成果に対する評価	△
----------	---



環境教育出前講座・生物多様性でYES!
「侍従川で生きもの調査」



環境教育出前講座・生物多様性でYES!
「野菜作りと生物多様性」

■課題と対応

- ・環境情報サイト「エコぼると」を活用し、講座の開催報告などを発信していきます。
- ・学校等での実施のほか、自治会・町内会や地域での出前講座の利用促進のため、PRを充実させる必要があります。

取組名	環境教育実践推進校
-----	-----------

■取組内容

身近な体験から持続可能な社会を考える環境教育を展開します。

■取組目標

56校を指定（2005年度から2014年度まで累計）

■主な事業実績

平成23年度 (2011年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな体験をとおした学習を実践するため環境教育実践推進校を、新たに3校指定し、累計35校となりました。 ・環境教育実践推進校の取組を「こどもエコフォーラム」において、発表しました。
平成24年度 (2012年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育実践推進校として、新たに9校指定し、累計44校となりました。 ・環境教育実践推進校の取組を「こどもエコフォーラム」において、発表しました。
平成25年度 (2013年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育実践推進校として、新たに3校指定し、累計47校となりました。

■3か年の評価

豊かな体験をとおした学習を実践するため、3か年で15校、2005年から累計47校を指定し、先導的な取組を進めています。さらに、「こどもエコフォーラム」において各校が発表することで、取組を広く周知することができました。

成果に対する評価	○
----------	---



梅田川での生き物調査



黒須田川の生き物調査

■課題と対応

これまで蓄積した実践推進校の取組を継続性させるため、平成26年度に策定される第2期教育振興基本計画に基づく新たな取組を検討していく必要があります。

取組名	市民農業大学講座
-----	----------

■取組内容

農家での農作業の手伝いや公園等でのボランティア活動に興味を持つ市民に、栽培管理等の基礎研修を行い、援農や緑化ボランティア活動の人材を育成します。

■取組目標

野菜・果樹コース 40 人、花・緑コース 30 人（年間）

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	野菜・果樹コースに 40 名、花・緑コースに 22 名が受講しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	野菜・果樹コースに 38 名、花・緑コースに 22 名が受講しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	野菜・果樹コースに 50 人、花・緑コースに 40 人が受講しました。

■3 か年の評価

応募者数は安定しており、目標どおり取組を進めることができました。

成果に対する評価	○
----------	---



野菜・果樹コース 実習
(夏野菜の植え付け)



花・緑コース 実習
(花壇づくり)

■課題と対応

平成 24 年度から定員数を増やしたため、応募者確保に向けて、より効果的な募集や事業周知の方法を検討する必要があります。

取組名	担い手コーディネーターの育成・派遣
-----	-------------------

■取組内容

市民協働による農作業を促進するため、市民と農家の橋渡しができる人材を育成し、労働力不足の農家への支援を行います。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・援農活動を目的としている市民団体 2 組織と市の協働による事業実施に向けて協定を締結しました。 ・必要な資材の購入や援農の知識向上に向けた研修等を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・援農コーディネーター組織 2 組織の支援を実施。具体的には、援農するための研修や援農の P R 活動等に対して支援を行いました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・援農コーディネーター組織 2 組織について、研修会の開催、農家に向けた援農活動の P R 等に対する支援を行いました。

■3か年の評価

市民農園の開設を支援するコーディネーターの登録を 16 法人、援農のコーディネーター組織との協定締結を 2 組織と行い、目標を上回る進捗となりました。

成果に対する評価	◎
----------	---



援農の様子



援農の様子

■課題と対応

・援農や市民農園の開設をコーディネートする組織の仕組みが整ったため、今後は、これらの組織が円滑に活動できるよう支援を進める必要があります。

取組名	活動団体への活動支援 【重点アピール1】
-----	-------------------------

■取組内容

これまでの活動助成制度を見直し、生物多様性などテーマ性を持って環境活動団体へ支援します。また、引き続き、団体等への表彰などを行います。

■取組目標

- ・連携支援団体 20 団体
- ・2011 年度から新たな制度づくりの検討・実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・申請期間を延ばすなど、団体にとって活用しやすい新たな助成制度を実施し、8 団体、計 74 万 4 千円の助成金を交付しました。 ・横浜環境活動賞の受賞者 11 団体を審査のうえ決定しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全活動助成金では、11 団体、計 99 万 6 千円の助成金を交付しました。 ・横浜環境活動賞では、23 団体・企業を活動賞受賞者として表彰しました。 ・横浜環境活動賞審査委員会を 24 年度から公開しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全活動助成金では、10 団体、計 83 万 8 千円の助成金を交付しました。 ・観察会や環境学習の実施、生き物の集う場づくりなど、さまざまな取組に助成し、生物多様性の保全活動を推進しました。

■3 か年の評価

- ・環境保全活動助成金は、H23 年度から申請時期に幅を持たせ利用しやすくしました。また、テーマを設定し、生物多様性の取組の推進に寄与しました。
- ・横浜環境活動賞は 23 年度から「生物多様性」をテーマに「特別賞」を創設し、市民の活動を顕彰することで、生物多様性の取組について広く周知されています。
- ・観察会や環境学習の実施、生き物の集う場づくりなど、さまざまな取組に助成し、生物多様性の保全活動を推進しました。

成果に対する評価	○
----------	---



活動助成金による保全活動



横浜環境活動賞表彰式

■課題と対応

- ・環境活動団体同士の横のつながり、交流を拡大していく必要があります。
- ・助成金による事業内容や効果が多くの人に伝わるようにする必要があります。

取組名	樹林地管理団体活動助成事業
-----	---------------

■取組内容

ボランティア団体が森の保全活動を自主的・計画的に取り組めるよう、助成等により活動を支援します。また、市民の森愛護会等の維持管理水準をさらに高めるため、活動団体等に対し、技術支援等を行います。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	市民の森やふれあいの樹林地等で森づくり活動をしている愛護団体 70 団体に対して助成等支援を行いました。(助成金 5 団体、道具の貸し出し 46 団体、研修 19 団体)
平成 24 年度 (2012 年度)	市民の森やふれあいの樹林地等で森づくり活動をしている愛護団体 85 団体に対して助成等支援を行いました。(助成金 1 団体、道具の貸し出し 34 団体、研修 50 団体)
平成 25 年度 (2013 年度)	市民の森やふれあいの樹林地等で森づくり活動をしている愛護団体 98 団体に対して助成等支援を行いました。(助成金 1 団体、道具の貸し出し 25 団体、研修 72 団体)

■3か年の評価

- ・森づくり活動を行っている団体に対する助成や道具の貸出し等の支援を通じて、樹林地の効率的・効果的な維持管理を推進できました。
- ・各種研修を実施し、活動における安全性の確保や組織の活性化につなげることができました。

成果に対する評価	◎
----------	---



活動団体基本研修の様子
(中区・横浜市開港記念会館)



救命救急講習会の様子
(中区・横浜市技能文化会館))

■課題と対応

- ・今後は、団体を構成する会員の減少などの課題に対応するため、個人ボランティア受入のための橋渡しや受け入れ態勢づくりへの支援等も継続的に実施していく必要があります。

取組名	事例発表会・交流会・合同研修会の開催 【重点アピール1】
-----	---------------------------------

■取組内容

行政、企業、活動団体などによる生物多様性の取組に関する事例発表会や交流会等を開催します。

■取組目標

4回(年間)

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・事例発表などを行ってもらう場として「ヨコハマbデイ」をスタートさせ、秋、冬に2回開催しました。bデイの会場では、様々な活動団体が活動の報告をしました。 ・研修会を4回実施しました。(「ヨコハマbプラン説明会」、「生物多様性に関する講演会」、「みんなではじめる生物多様性研修」等)
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・「ヨコハマbデイ」を秋、春に2回開催しました。「ヨコハマbデイ 2013・春」では、市民活動団体、企業、学校等が参加しそれぞれの取組を発表するとともに、ポスターセッションにおいて交流会を実施しました。 ・大学と連携した報告会「いきもの調査から見える横浜の生物多様性」(大学取組の発表他、調査報告会)を開催しました。 ・研修会を4回実施しました。(「生物多様性ビギナー研修」、「生物多様性研修・夏」、「生物多様性の危機って何!?!～外来生物を知ろう～」等)
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市が代表を務めた(平成24年11月～平成25年10月)生物多様性自治体ネットワークが主催で、生物多様性地域戦略をテーマにテーブルセミナーが開催され、全国の自治体により情報共有、意見交換を行いました。 ・研修会を4回実施しました。(「地域の植物から学ぶ生物多様性研修会」、「生物多様性研修・夏」、「雨水調整池ビオトープ維持管理研修会」等)

■3か年の評価

- ・横浜環境活動賞と連携し、市民団体、企業、学校等の情報共有・交流の場を定期的に開催する流れができました。
- ・生物多様性自治体ネットワークのイベントを活用し、全国の自治体と生物多様性保全推進に関する情報共有、意見交換を行うことができました。
- ・環境創造局主催研究事例発表会において、市民及び職員へ向け生物多様性に関する取組が発表し周知を図りました。

成果に対する評価	○
----------	---



生物多様性自治体ネットワーク
テーブルセミナー



活動団体等による交流会

■課題と対応

行政、企業、活動団体などが実施する生物多様性の取組を共有し、情報発信を進める必要があります。

取組名	連携・交流のプラットフォームづくり 【重点アピール1】
-----	--------------------------------

■取組内容

生物多様性に関する取組を「b-アピール」として公募し、web マップ化することなどによる連携・交流のプラットフォームづくりや、身近なエリアごと（方面別や流域別、区単位等）やテーマを絞った事例発表会・交流会の開催により、企業や活動団体などの情報交流を深め、モチベーション向上や連携、技術力アップなどにつなげていきます。

■取組目標

実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	事例発表などを行ってもらう場として「ヨコハマbデイ」を秋、冬に2回開催し、様々な活動団体に活動内容を報告してもらいました。
平成 24 年度 (2012 年度)	・環境情報サイト「エコぼると」をリニューアルし、環境施設マップの新設、団体の登録、を行いました。 ・事例発表や交流の場として、「ヨコハマbデイ」を秋、春に2回開催しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	・環境情報サイト「エコぼると」による情報発信を引き続き実施しました。 ・「ヨコハマ環境行動フェスタ 2013」のステージイベントで、市民団体等の講演、展示スペースにて活動内容の紹介を実施しました。

■3か年の評価

- ・環境情報サイト「エコぼると」の施設マップを新たに開設し、情報を分かりやすく見えるよう工夫しました。
- ・事例発表やイベントの実施により、市民団体、企業の取組紹介や後援、事例発表の場を設けることができました。

成果に対する評価	○
----------	---



ヨコハマ環境行動フェスタ
ステージイベント



ヨコハマbデイ 2013・春

■課題と対応

- ・引き続きイベントの実施や制度を広く周知していく必要があります。
- ・環境活動拠点、市民団体や企業のネットワークの連携、交流の場づくりを更に活用していく必要があります。

取組名	ウェルカムセンターの整備
-----	--------------

■取組内容

市民が気軽に立ち寄り、森の散策情報やイベント情報等が得られるなど、既存施設を活用して市民が森を利用しやすい機能を備えたウェルカムセンターを設置します。

■取組目標

5か所

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	横浜自然観察の森内の自然観察センターをウェルカムセンターとして整備を進めました。
平成 24 年度 (2012 年度)	横浜自然観察の森内の自然観察センターと新治里山公園にいはる里山交流センターが、ウェルカムセンターとして整備されました。 設計：2か所（寺家ふるさと村四季の家、舞岡ふるさと村虹の家） 展示設置等：2か所（横浜自然観察の森自然観察センター、新治里山公園にいはる里山交流センター）
平成 25 年度 (2013 年度)	寺家ふるさと村四季の家、舞岡ふるさと村虹の家、環境活動支援センターが、ウェルカムセンターとして整備されました。 展示設置等：3か所（寺家ふるさと村四季の家、舞岡ふるさと村虹の家、環境活動支援センター）

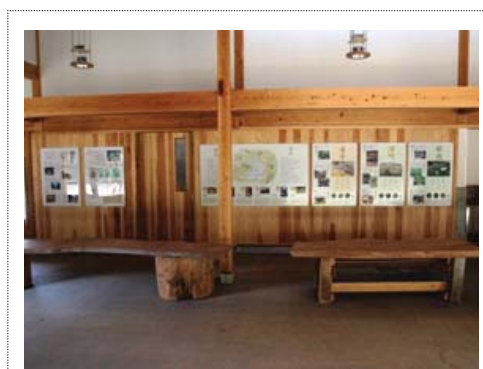
■3か年の評価

- ・既存施設の活用を軸として計画を推進し、5か所のウェルカムセンターの整備を完了しました。
- ・整備後は、市民がウェルカムセンターに訪れることで、樹林地の魅力や保全の意義について広く啓発することができました。

成果に対する評価	○
----------	---



横浜自然観察の森 自然観察センター
(栄区)



新治里山公園 いはる里山交流センター
(緑区)

■課題と対応

- ・整備したウェルカムセンターを活用し、森の散策情報の発信など、さらに森への関心を高める取組を進める必要があります。

取組名	活動拠点の整備
-----	---------

■取組内容

市民の森愛護会や森づくりボランティアの活動が活性化するように、活動拠点を整備します。

■取組目標

整備 5 か所

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	愛護会や森づくりボランティアの活動が活性化するように、活動拠点の整備をしました。 設計：1 か所（新治市民の森） 整備：1 か所（横浜自然観察の森） （参考）平成 22 年度もえぎ野ふれあい樹林
平成 24 年度 (2012 年度)	愛護会や森づくりボランティアの活動が活性化するように、活動拠点の整備をしました。 設計：2 か所（瀬谷市民の森、鴨居原市民の森） 整備：1 か所（新治市民の森）
平成 25 年度 (2013 年度)	愛護会や森づくりボランティアの活動が活性化するように、活動拠点の整備をしました。 整備 2 か所（瀬谷市民の森、鴨居原市民の森）

■3か年の評価

- ・当初計画通り 5 か所の市民の森等で活動拠点の整備を完了しました。
- ・森づくり活動を行う団体の倉庫や作業スペースが整備されたことで、活動がさらに円滑に行われるようになり、市民との協働に貢献しています。

成果に対する評価	○
----------	---



新治市民の森活動拠点（緑区）



瀬谷市民の森（瀬谷区）

■課題と対応

- ・計画以前から活動拠点を確保している団体もあることから、今後は、活動団体の個別ニーズを把握しながら対応していく必要があります。

取組名	公園再整備等の推進
-----	-----------

■取組内容

地域ニーズを反映した公園の再整備を進めるとともに、子育て支援や健康づくりなどの場となる身近な公園の整備を進めます。

■取組目標

整備着手公園数 176 公園

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	地域ニーズを反映した公園の再整備や新たな公園の整備を進めました。 整備箇所：37 公園（累計：72 公園）
平成 24 年度 (2012 年度)	地域ニーズを反映した公園の再整備や新たな公園の整備を進めました。 整備箇所：32 公園（累計：104 公園）
平成 25 年度 (2013 年度)	地域ニーズを反映した公園の再整備や新たな公園の整備を進めました。 整備箇所：31 公園（累計：135 公園）

■3か年の評価

- ・平成 23 年度は 37 公園、平成 24 年度は 32 公園、平成 25 年度は 31 公園の整備を行いました。
- ・公園が、子育て支援や健康づくり、都心部活性化に貢献する場などとして活用されるよう、再整備を進めています。

成果に対する評価	○
----------	---



再整備した遊び場
(港南台西公園 (港南区))



再整備した棚田
(久良岐公園 (港南区))

■課題と対応

- ・身近な公園などの新設整備を計画的に進める必要があります。
- ・身近な公園などの新設整備や安全・安心対策（バリアフリー化など）の推進するため、着実に再整備を進める必要があります。

取組名	地産地消の推進
-----	---------

■取組内容

地産地消を推進するため、市民が身近で地場産農産物が購入できるように共同直売所の設置を支援するとともにナシやブルーベリーなどの収穫体験農園の開設の支援を行います。

■取組目標

共同直売所設置支援 2か所

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	【共同直売所】 新設共同直売所等の備品整備に対する支援 2 件 【収穫体験農園】 7. 1 ha
平成 24 年度 (2012 年度)	【共同直売所】 新設共同直売所等の備品整備に対する支援 2 件 【収穫体験農園】 5. 3 ha
平成 25 年度 (2013 年度)	【共同直売所】 既存共同直売所の建替及び備品購入に対する支援 3 件 【収穫体験農園】 5. 3 ha (30 箇所)

■3か年の評価

- ・当初計画(2か所)は比較的大規模な直売所を想定しているのに対し、事業者等のニーズを踏まえ、市民に身近な小規模の直売所への支援を実施としました。
- ・収穫体験ができる農園の整備が進むことで、果樹のもぎとりなど、市民が農を楽しむ場の確保に貢献しました。

成果に対する評価	◎
----------	---



共同直売所(JA横浜「ハマッ子」直売所たまプラーザ店)



収穫体験農園(イチゴ)

■課題と対応

- ・市民ニーズや生産振興の観点から、身近な直売所の必要性は高いが、直売所の分布や設置・運営者の意向などを踏まえながら、継続の要否について検討する必要があります。
- ・市民の農体験のニーズは高いため、身近な場所で気軽にもぎ取りなどの体験ができる場の拡充が必要です。
- ・農園の開設に関心を持つ方も多いことから、事業を継続していくことが必要です。

取組名	市民利用型農園の設置
-----	------------

■取組内容

市民が農業を体験できる場、児童生徒の環境学習の場等として、休憩施設を整備した農園や農家が指導する農園等の多様な市民利用型農園を増設します。

■取組目標

農園を楽しむ世帯数 7,000 世帯

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	より多くの市民が農体験を楽しめるよう、多様な市民利用型農園の増設を支援しました。農園を楽しむ世帯数：6,542 世帯
平成 24 年度 (2012 年度)	より多くの市民が農体験を楽しめるよう、多様な市民利用型農園の増設を支援しました。農園を楽しむ世帯数：7,056 世帯
平成 25 年度 (2013 年度)	より多くの市民が農体験を楽しめるよう、多様な市民利用型農園の増設を支援しました。農園を楽しむ世帯数：7,430 世帯

■3か年の評価

多様な農園の中でも、区画貸しである特区農園の開設が進み、目標を上回る進捗となっています。

成果に対する評価	◎
----------	---



特区農園



栽培収穫体験ファーム

■課題と対応

- ・隣接する農地等での農業経営と市民利用型農園との調和を図る必要があります。
- ・栽培指導つき体験農園の新規開設数の停滞への対策や農地が少ない市街地エリアでの農体験ニーズへの対策の検討が必要です。

取組名	農ある地域づくり
-----	----------

■取組内容

地域農産物の生産の場や農体験の場を整備し、農業が安定的に営まれる地域づくりを進めます。

■取組目標

11 地区

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	平成 22 年度実績 10 地区に新規 1 地区を合わせ、累計 11 地区で事業を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	各地区の事業を推進しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	各地区の事業を推進しました。

■3か年の評価

農家と地域の住民が交流できるような農体験の場の提供を支援し、市民が農とふれあう機会を増やすとともに、地域農業の活性化、農景観の保全に貢献しました。

成果に対する評価	○
----------	---



援農活動 (戸塚区舞岡地区)



じゃがいも掘り (戸塚区舞岡町)

■課題と対応

- ・総合案内所の老朽化や指導農家の高齢化が課題です。
- ・市民と農家のマッチング、コーディネートについて、検討する必要があります。

取組名	多岐にわたる分野とのコラボレーションの推進 【重点アピール1】
-----	------------------------------------

■取組内容

身近にある水田や里山、海などに関心を持ってもらうため、コンサートなどのイベント、健康づくり、福祉施設との連携など、多岐にわたる分野とのコラボレーションによりきっかけづくりを幅広く行います。

■取組目標

2011年度から推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	地球環境と、生きものの命の大切さ、生きものとの共生をテーマにしたミュージカルや、DNA 分析技術を使って生物多様性について調査研究を行っている学会のシンポジウムに後援を行い、他の分野とのコラボレーションを推進しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・インド・ハイデラバードで開催された生物多様性条約第 11 回締約国会議 (COP 11) (平成 24 年 10 月) において、本市の生物多様性の取組を発表しました。 ・ヨコハマ b フェスティバル 2012 にて、写真・アートを通して企業やマスメディア、市民団体との連携ができました。 ・「きれいな海づくり」の事業紹介を百貨店のイベントスペースで実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業が主催する里山イベントに出展し、横浜の里山環境について紹介しました。 ・スポーツ選手などによるスポーツの楽しさと環境の大切さを伝えるイベントに協力するなど、他分野が行うイベント等に後援等を行いました。

■3か年の評価

- ・COP 11 において、生物多様性自治体ネットワークの構成自治体として横浜市の生物多様性の取組を発信できました。
- ・ヨコハマ b プラン重点推進施策の「きれいな海づくり」の事業紹介を百貨店の協力の下、同店のイベントスペースで行うなど、今までの枠にとらわれない手法でPRできました。

成果に対する評価	◎
----------	---



百貨店でイベントを実施。



民間企業が主催する里山イベントに出展

■課題と対応

- ・生物多様性と関連の無いと思われていた分野とのコラボレーションをさらに進める必要があります。
- ・生物多様性をわかりやすく伝えるツールの作成やイベントの展示方法を検討していく必要があります。

取組名	自然環境などの地域資源を活用した体験プログラム
-----	-------------------------

■取組内容

自然環境や社会的資源を活用した体験活動プログラムを実施し、青少年のコミュニケーション能力向上と人間性・社会性の育成を図ります。

■取組目標

参加人数 3,000 人/年

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・(公財) よこはまユース補助事業の一環として実施しました。 ・市内で活動する青少年育成関連及び若者自立支援、環境保全、自然体験、子育て等の活動をしているNPOや市民団体、企業等の活動発表会と体験会を実施しました。(参加者数：1,853 人)
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・(公財) よこはまユース補助事業の一環として実施しました。 ・市民団体と連携した青少年向け自然社会体験イベントを実施しました。(参加者数：2,214 人) ・社会資源等を活用した体験プログラムを実施しました。(参加者数：1,400 人)
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・(公財) よこはまユース補助事業の一環として実施しました。 ・市民団体と連携した青少年向け自然社会体験プログラムを実施しました。(参加者数：2,060 人) ・社会資源等を活用した自然・社会体験プログラムを実施しました。(参加者数：100 人)

■3か年の評価

・市内の青少年を育成する団体等と連携しながらイベントを実施し、青少年に自然体験の機会を提供しました。

成果に対する評価	○
----------	---



身近な素材を使ったゲーム
体験ブースの出席



創作家づくりワークショップ

■課題と対応

引き続き、自然環境を楽しみながら学べる青少年向けイベントを実施します。

取組名	食と農との連携事業
-----	-----------

■取組内容

食の祭典の開催や横浜型アグリツーリズムの実施、地産地消ガイドブックの発行など、農家と市民・企業・教育機関（産学連携等）、様々な人や団体が連携した新たな地産地消に取り組みます。

■取組目標

15 件

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	よこはま食と農の祭典 2011 を開催や地産地消ガイドブック「食べる. 横浜」の発行など各種事業により取組を推進しました。(6 件)
平成 24 年度 (2012 年度)	よこはま食と農の祭典 2012 を開催や山下公園での市内農産物の朝市など各種事業により取組を推進しました。(7 件)
平成 25 年度 (2013 年度)	よこはま食と農の祭典 2013 や横浜食と農のフォーラムの開催など各種事業により取組を推進しました。(7 件)

■3 か年の評価

- ・市民・企業・教育機関等の様々な人や団体が連携し、イベントやガイドブックの出版など新たな地産地消の取組が進みました。
- ・みなとみらいクイーンズサークルにて市民連携で「よこはま食と農の祭典」を3年間開催し、多くの市民のみなさまに横浜の農や農畜産物の魅力を実感していただきます。

成果に対する評価	○
----------	---



食と農の祭典



食べる. 横浜

■課題と対応

- ・ イベント等について、外部委託を効果的に活用するなど、運営方法の効率化の検討が必要です。
- ・ 行政や農家以外の主体による地産地消の取組が進み始めており、さらなる展開を図る必要があります。

取組名	普及啓発
-----	------

■取組内容

在来生物の生息・生育環境を守るため、外来生物についての普及啓発（リーフレットの発行や講演会・学習会の開催等）や市民協働による取組を進めます。

■取組目標

継続的に推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・4月にリーフレット「はじめよう、bな暮らし」を発行し、外来生物に関する普及啓発を推進しました。 ・外来生物に取り組む環境活動団体に助成金を交付しました。(1件)
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金の重点募集テーマとして新たに「外来生物」を設け、多くの団体に普及啓発を実施していただき、それをホームページで情報発信しました。 ・職員研修で外来生物に関する啓発を実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で外来生物をテーマとした出前講座を実施しました。 ・市の施設公開で剥製やパネル、リーフレットを活用した普及啓発を実施しました。 ・現場を活用した職員研修で外来生物に関する啓発を実施しました。

■3か年の評価

職員研修、施設公開、出前講座等で庁内外に対し、広く普及啓発ができました。

助成金、職員研修、リーフレットなどを通じて普及啓発を進めてきたが、総合的な普及啓発ができていない部分がある。

成果に対する評価	△
----------	---



出前講座で外来生物に関する授業



施設公開で外来生物に関する展示

■課題と対応

- ・国の動向と合わせた普及啓発の場所・対象・方法を検討する必要があります。
- ・外来生物の防除とあわせて、総合的な対応を検討していく必要があります。

取組名	動物園等における環境教育
-----	--------------

■取組内容

各動物園や繁殖センターでの教育普及活動等を通じて、生物多様性の普及啓発を進めます。金沢動物園では周辺を含めたエコ森計画をもとに環境教育に取り組みます。

■取組目標

継続的に推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖センターにおいて、科学スクールを実施 (参加者数 45 名) ・エコ森プロジェクトにおける環境教育プログラムの実施・検証しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<p>繁殖センター主催で、科学スクールや公開シンポジウムを開催しました。 (合計参加者数 87 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繁殖センターにおいて、大学等の教育機関を対象に講義や施設見学を実施しました。(12 校 318 名) ・各動物園で環境教育事業を実施しました。(317 件) ・金沢動物園にて環境教育プログラムツールとして、紙芝居等を作成しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・各動物園で環境教育事業を 319 件実施しました。 ・繁殖センターでは、施設の一般見学ツアーや教育機関・周囲の市民ボランティア等と連携し、年間を通じて施設見学や講義等を実施、希少動物の保全活動を紹介しました。(参加者計 666 名)。

■3か年の評価

- ・各動物園での環境教育事業について、想定を大幅に上回る件数の取組を行うことができました。
- ・金沢動物園では、独自に製作した教材を使って既存の教育プログラムを充実させるとともに、周辺環境をいかした2つの新規プログラムを企画実施しました。

成果に対する評価	○
----------	---



金沢動物園での環境教育プログラムの様子



「身近な生き物を守る—
よこはまが取り組む日本産動物の保全」

■課題と対応

- ・学校向けの環境教育プログラムだけでなく、一般来園者向けのイベントにも環境教育の要素をより浸透させていくことが必要です。
- ・未就学時や小学校低学年向けのプログラムだけではなく、小学校高学年や中学生、大人向けのプログラムをより拡充していくこと。

取組名	希少野生動物の保護・繁殖
-----	--------------

■取組内容

繁殖センターにおいて、カンムリシロムクなどの希少野生動物の飼育・繁殖に取り組んでおり、飼育技術の向上を図るための調査や、野生動物の生態を解明するための基礎的な研究などを行います。

■取組目標

継続的に推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	飼育技術の向上を図るための調査や、野生動物の生態を解明するための基礎的な研究などを行いました。 ・カンムリシロムク 13 羽繁殖 ・カグー1 羽繁殖
平成 24 年度 (2012 年度)	飼育技術の向上を図るための調査や、野生動物の生態を解明するための基礎的な研究などを行いました。 ・カンムリシロムク 8 羽繁殖 ・カグー1 羽繁殖 ・カンムリシロムク (25 羽) をインドネシアへ送致 ・ニホンライチョウの保全に向け、近似種スバルバルライチョウを導入しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	・ニホンライチョウ保全のために導入した近縁種スバルバルライチョウの繁殖に成功し、5 羽が成育しました。 ・地域保全種として取り組み始めた希少鳥ミゾゴイの遺伝的多様性の解析を実施しました。

■3か年の評価

これまで取り組んできた海外の希少動物に加え、日本産希少動物や横浜市に生息する希少な野生動物の飼育・繁殖に取り組むとともに、これらの日本産希少動物保全への取組を学会や研究会などで発表し、広く周知することができました。(計6回)。

成果に対する評価	◎
----------	---



ライチョウ自然育雛。母鳥と雛



ライチョウ人工育雛。ヒナ 24 日齢

■課題と対応

・日本産動物保全に関わる研究の推進および繁殖技術確立、地域種への取組強化に取り組めます。

取組名	種の保存に関わる調査・研究
-----	---------------

■取組内容

繁殖センターにおいて、動物の雌雄判別や近縁関係等を調べるための遺伝子解析や繁殖に関わる行動解析などの研究を行っています。また、絶滅が危ぶまれる動物の遺伝子などの凍結保存も行っています。

■取組目標

継続的に推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・市立動物園飼育動物種の糞中の性ホルモンの解析をしました。(8 種) ・市立動物園飼育鳥類の DNA による雌雄判別を実施しました。(14 種 44 個体) ・市立動物園飼育動物種の遺伝的多様性(近縁関係等)の解析をしました。(5 種) ・希少野生動物の精子 5 種、体組織 20 種を凍結保存しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・市立動物園飼育動物種の糞中の性ホルモンの解析をしました。(5 種) ・市立動物園飼育鳥類の DNA による雌雄判別を実施しました。(19 種 84 個体) ・市立動物園飼育動物種の遺伝的多様性(近縁関係等)の解析をしました。(3 種) ・希少野生動物の精子 2 種、卵子 2 種、体組織 21 種を凍結保存しました。 ・ウンピョウの人工授精に向けた取り組みました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・国立環境研究所、(公社)日本動物園水族館協会、大学等 10 施設と研究協力を行い、希少動物の保全に関わる研究を推進しました。 ・日本動物園水族館協会の配偶子バンクの設置により、全国の動物園館が飼育する希少動物の人工繁殖技術推進に着手しました。 ・市立動物園飼育動物種の糞中ステロイドホルモンの解析(6 種)を実施しました。 ・市立動物園飼育鳥類の DNA による雌雄判別(17 種 81 個体)を実施しました。 ・研究の成果を投稿論文(1 件)、口頭発表(5 件)、ポスター発表(3 件)にて発表しました。

■3 か年の評価

国立機関や日本動物園水族館協会との研究連携を図り、希少動物の保全に関する研究を推進しました。

成果に対する評価	◎
----------	---



(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)
配偶子バンク設置

■課題と対応

保全研究を広報することが求められます。

取組名	市民の守りたい、伝えたい谷戸環境の選定 【重点アピール3】
-----	----------------------------------

■取組内容

「生物の生息・生育空間」・「歴史や文化」・「子育てや福祉」・「環境教育」・「景観」などの観点から横浜の谷戸環境を公募し選定することを通じて、市民の共通理解を深めます。

■取組目標

2013年度に選定

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	谷戸の魅力や選定方法の検討を行いました。
平成 24 年度 (2012 年度)	・ b フェスティバルで「b な写真・動画」に谷戸の風景も加え、募集しました。 ・ 応募のあった写真については、パシフィコ横浜で開催された国内最大級の写真関連の祭典「CP+2013」(平成 25 年 1~2 月)に、本市の生物多様性の取組として出展しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	・ 民間企業の主催する里山・里海イベントで、谷戸環境やそこに生息する生き物などについて PR しました。 ・ 谷戸環境を活用に役立つツールとして、ホームページ開設の調整を行いました。

■ 3 か年の評価

- ・ イベント等では市民の森などの広報と合わせて、谷戸環境の役割やそこで生息する生き物のことを伝える取組を行うことができました。
- ・ 市内の谷戸環境を PR するためのホームページの準備を進めました。

成果に対する評価	△
----------	---



写真映像イベント「CP+」



写真映像イベント「CP+」

■課題と対応

- ・ イベントやホームページなどを活用し、谷戸の機能や役割、魅力について、引き続き普及啓発を進める必要があります。
- ・ 谷戸環境の現場での研修会や市民活動への支援などを進めていく必要があります。

取組名	横浜における水田生態系の研究・活用 【重点アピール3】
-----	--------------------------------

■取組内容

水田、水路、ため池、二次林の雑木林で構成される谷戸は、多様な環境がつながって形成されており、生き物にとって重要な生息・生育のエリアとなっています。水田の多面的機能を高めるためにも、その地域の生き物や複雑な生態系環境の情報を収集・分析し、様々な事業にいかしていきます。

■取組目標

2011年度から実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・新治恵みの里で「田んぼの生きもの調査」実施しました。(8月28日参加者23人) ・谷戸周辺を歩きながらの目視による調査、水路の調査、稲についている虫を観察するための虫見板という道具を使った調査を行い、87種類もの生きものを観察することができました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内6か所の田んぼで農体験に参加している市民が行う「生きもの調査」を実施または支援しました。 実施箇所：環境学習農園(瀬谷区・青葉区)、田奈恵みの里(青葉区)、農のある地域づくり協定(緑区・青葉区)、農地流動化促進事業の市中間保有地(泉区)
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・市内3か所で田んぼの生きもの調査を実施しました。その他1か所では、道具の買出し等の支援を行いました。 ・実施箇所：田奈恵みの里(7/6)、田奈っ子農園(7/8)、いずみ野小学校(7/23) ・関係課と地元が協力して、田んぼにおいて、ヒートアイランド現象に関する調査を行いました。調査結果は職員及び市民に対して発表を行いました。

■3か年の評価

- ・田んぼの生き物について、生物調査の結果を得るとともに、参加者への普及啓発となっています。
- ・水田のヒートアイランド現象の抑制効果を調査すること、またその結果を周知することで、水田の多面的機能について広く啓発することができました。

成果に対する評価	○
----------	---



生きもの調査 (いずみ野小学校)



生きもの調査 (田奈恵みの里)

■課題と対応

農業と生き物の関わりを踏まえた、農業と両立しうる生物多様性保全施策の検討が必要です。

取 組 名	庁内横断による谷戸環境の積極的活用 【重点アピール3】
-------	--------------------------------

■取組内容

横浜市の各区局の様々な施策や事業に谷戸環境がもたらしてくれるサービス（きれいな空気、生き物とのふれあいや田んぼや緑の効用や様々なフィールドの提供として）を内在化させ、子育て・福祉、健康、地産地消・食育や農業体験、環境教育、生涯学習や地域活性化事業など、区局の連携で活用していきます。

■取組目標

2011年度から実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	・谷戸の現場を活用した庁内研修会を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	・小学校の授業や、農業関係のイベントの中などでの生きもの調査を実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	・貴重な谷戸環境について、イベント等を通じてPRしました。 ・谷戸環境を活用に役立つツールとして、ホームページ開設の調整を行いました。

■3か年の評価

小学校の授業や、農業関係のイベントの中などで、谷戸を活用した生きもの調査を実施し、谷戸環境がもたらすサービスについて普及啓発を進めることができました。

成果に対する評価	○
----------	---



横浜に残る谷戸環境（戸塚区）



庁内研修会

■課題と対応

さまざまなセクターを連携し、谷戸の恵みについてより一層広報をしていく必要があります。

取組名	「恵みの里」など市民の農体験の場の提供 【重点アピール3】
-----	----------------------------------

■取組内容

「恵みの里」「環境学習農園」「栽培収穫体験ファーム」などの事業により、水田所有者や地元農業者組織による体験水田の運営を支援します。

■取組目標
推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	「恵みの里」「環境学習農園」「栽培収穫体験ファーム」などの事業により、延べ 0.9ha の水田の運営を支援しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	「恵みの里」「環境学習農園」「栽培収穫体験ファーム」などの事業により、延べ 1.1ha の水田の運営を支援しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	「恵みの里」「環境学習農園」「栽培収穫体験ファーム」などの事業により、延べ 1.1ha の水田の運営を支援しました。

■3か年の評価

- ・市民への農体験の場の提供については、計画どおりの成果が得られました。
- ・ほとんどの体験水田で無農薬又は極力、農薬を使わない栽培に取り組むとともに、一部の水田では生き物調査を行い、生物多様性の意義をアピールしました。

成果に対する評価	○
----------	---



田植え体験 (青葉区田奈恵みの里)



稲刈り体験 (青葉区田奈恵みの里)

■課題と対応

水田における農体験については、市民からも好評を得ており、農業への理解や普及啓発の意味においても効果があるため継続して実施していく必要があります。

取組名	市民参加による構想計画の策定 【重点アピール4】
-----	-----------------------------

■取組内容

つながりの森全体の自然環境や立地特性などを見据えるとともに、個々の環境特性、現在の保全管理の取組などを考慮し、構想計画を取りまとめます。

■取組目標

2012 年度に策定

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	構想案を検討しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構想案に対する市民からの意見を募集し、「横浜つながりの森構想」を策定しました。 ・ 構想について、パネルやリーフレットによる周知・普及啓発を行いました。 ・ 構想策定記念の基調講演を開催しました。(平成 25 年 3 月 3 日)
平成 25 年度 (2013 年度)	関係区と連携しイベントなどで「横浜つながりの森」の取組及び構想を紹介するパネルやリーフレットにより広く周知しました。

■3 か年の評価

- ・ 市民参加のワークショップや市民意見募集により、平成 24 年 7 月に構想策定しました。
- ・ 策定後も構想を紹介するパネルやポスター等を作成し、横浜つながりの森エリア内の拠点施設へ設置したり、イベントに出展するなど継続的な普及啓発に努めました。

成果に対する評価	○
----------	---



横浜つながりの森エリアの緑地



金沢区のイベントでの PR

■課題と対応

- ・ 関係区局と連携し、横浜つながりの森の魅力を更に発信していく必要があります。
- ・ 構想に基づき、区局間の情報共有を進め、「生き物の多様性を大切にする」取組と「自然を楽しむ」取組を推進します

取組名	森を支えている活動団体のつながりの強化 【重点アピール4】
-----	----------------------------------

■取組内容

森を支えている活動団体が参加し、情報交流、意見交換などができる場を設けるなど、ネットワーク活動を推進します。また、活動団体の意欲・能力をいかしていくため、既存のフィールドから拡大していくことを支援します。さらに、コーディネーターを配置し、活動団体の連携による市民主体の保全活動の推進につなげていきます。

■取組目標

2011年度から推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	構想案の策定に向けた市民参加のワークショップを 2 回開催しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	構想を策定し、関係局区と連携して取組を推進しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	「横浜つながりの森」エリアで活動する団体紹介等により、同エリアの自然環境を保全し、楽しみ、次代につなげるための新たな担い手となる人材の育成などの取組について検討し調整を進めました。

■3か年の評価

「横浜つながりの森」エリアで活動する団体紹介等により、同エリアの自然環境を保全し、楽しみ、次代につなげるための新たな担い手となる人材の育成などの取組について検討しました。

成果に対する評価	△
----------	---



ワークショップの様子



ワークショップの様子

■課題と対応

活動団体同士の連携がより図られるように、効果的な広報などの検討が必要です。

取組名	拠点施設の強みをいかした連携の強化 【重点アピール4】
-----	--------------------------------

■取組内容

現在ある施設(自然観察センター、ののほな館、上郷・森の家など)、また、旧小柴貯油施設の跡地利用や関連施設なども含め、施設間の連携、役割分担、これまでの取組、各地域の特性などを踏まえ、連携の強化を進めます。

■取組目標

構想計画を踏まえ、推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	・構想案の作成にあたり、検討を進めました。
平成 24 年度 (2012 年度)	・横浜つながりの森の魅力アップのため、拠点施設を回遊するシャトルバスを運行しました。(平成 24 年 10 月 27 日～11 月 25 日までの土・日・祝計 11 日間。運行本数 14 本/日。乗車人数 469 人。)
平成 25 年度 (2013 年度)	・各主要施設でのスタンプラリーを開催し、市民が自然環境を守り、楽しむため、各施設利用にあたってのマナーやルール等についての周知を促進しました。

■3か年の評価

- ・拠点施設を結ぶシャトルバスを運行を試行したことで、回遊性が向上し、拠点施設を訪れるきっかけを作ることができました。
- ・スタンプラリー等の開催を通じ、市民が自然環境を守り、楽しむため、各施設利用にあたってのマナーやルール等についての周知を促すことができました。

成果に対する評価	○
----------	---



シャトルバスの運行



車内ガイドによる森の紹介

■課題と対応

施設間の連携・情報共有をさらに進める必要があります。

取組名	瀬上池の未来づくり 【重点アピール4】
-----	------------------------

■取組内容

瀬上池のつながりの森における位置づけなどを検討し、さらに今後この瀬上池を含め瀬上市民の森で検討することとなっている生物多様性の保全にも資する保全管理計画と連動させながら、未来づくりに向けた取組を進めます。

■取組目標

構想計画を踏まえ、推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	瀬上池の生物多様性の保全に関する基礎調査を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	市民の森愛護会の他、複数の活動団体を運営母体とする「瀬上市民の森保全協議会」を立ち上げました。また、瀬上池への土砂流入防止措置を検討するとともに、地域の活動団体へのヒアリングや意見交換を行い、今後の方向性について検討を重ねました。
平成 25 年度 (2013 年度)	土砂流入防止対策、浚渫における生物相への留意点、土砂流入の状況について調査を行いました。瀬上池上流域には沈砂池を設置し、流入防止策を施しました。また、地域の活動団体へのヒアリングや意見交換を行い、今後の方向性について検討を重ねました。

■3か年の評価

H23 年度に瀬上池の持つ生物多様性の保全機能調査を行った後、H24 年度以降に各種調査、検討業務、実施設計を行い、具体的な土砂流入対策に着手しました。瀬上市民の森保全協議会を立ち上げるとともに、愛護会・活動団体・行政で協働し、瀬上池のあるべき姿について検討しました。

成果に対する評価	○
----------	---



土砂が流入した瀬上池の様子



瀬上池

■課題と対応

H23 年度に行った瀬上池の持つ生物多様性の保全機能調査を踏まえ、水域の回復や土砂流入対策を行うとともに、生物多様性を保全していくため、瀬上池の望ましい環境づくりについて、地域の活動団体と協働して検討していく必要があります。

取組名	エコ森プロジェクトの推進 【重点アピール4】
-----	---------------------------

■取組内容

つながりの森全体の中で、金沢動物園再生計画である「エコ森プロジェクト」について、その位置づけを含めて検証します。つながりの森の中核エリアとして、交流の場や、環境教育フィールドとしての役割を持たせ、計画を推進します。

■取組目標

構想計画を踏まえ、推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・モニター校との環境教育プログラムの実施・検証を行いました。 ・金沢自然公園生物調査（平成 22 年度未実施箇所）を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢動物園で環境教育事業を 54 件実施 ・金沢動物園にて環境教育プログラムツールとして、紙芝居等を作成しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな園内の環境を活かし、土壌生物と夜行性生物を対象とした新たなプログラムを企画・実施しました。また、紙芝居などの教材を活かし、堆肥や外来生物などをテーマとしたプログラムを引き続き実施しました。

■3か年の評価

- ・紙芝居等教材の作成により、より広い年齢層、かつ短時間で効果的に環境教育の効果を高めることができました。
- ・既存のプログラム（堆肥や外来生物など）に加え、土壌生物や夜行性生物など新たなプログラムの企画・実施を進められるようになりました。

成果に対する評価	○
----------	---



夜行性生物を対象としたプログラムの様子



土壌生物を対象としたプログラムの様子

■課題と対応

つながりの森関連施設として、自然観察の森や上郷森の家とイベント等を通じた連携を進めていますが、つながりの森の中核エリアとして今後、連携を強化します。

取組名	緑地保全制度による地区指定の拡大と買取り
-----	----------------------

■取組内容

緑地保全制度を土地所有者に重点的に周知することで、地区指定を進めるとともに、特別緑地保全地区の指定等により、不測の事態による買取りの希望に対応します。

■取組目標

保全面積 1,949ha

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	104.6ha を新規指定、34.0ha を買取対応しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	107.6ha を新規指定、45.1ha を買取対応しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	109.7ha を新規指定、18.7ha を買取対応しました。

■3か年の評価

- ・平成 16 年度から 20 年度までの 5 年間の指定 (約 20ha/年) に対し、5 倍以上の指定ができました。
- ・指定地での買取希望に対して、横浜みどり税を活用して確実に対応し、取得面積を計画以前より増やすことができたことで、97.8ha の樹林地を永続的に保全することができました。

成果に対する評価	△
----------	---



緑地の指定：川和特別緑地保全地区(都筑区)



緑地の買取：大丸山近郊緑地特別保全地区(栄区)

■課題と対応

- ・樹林地の減少は鈍化しているものの、減少は続いており、保全対象の樹林地が多く残るため、継続的な取組が必要です。
- ・指定を進めることで樹林地の減少に対して一定の効果があり、買取対応により永続的な担保が図られていることから、事業の必要性は高いと考えられます。
- ・指定推進にあたっては、土地所有者のご理解とご協力が不可欠ですが、土地所有者の土地に関する考え方が多様であり、緑の大切さや制度に対してご理解をいただかず指定できない場合があります。

取組名	市民協働による緑地維持管理事業
-----	-----------------

■取組内容

市民の森等の樹林地において、多様な動植物が生息・生育できる環境を維持復元するため、保全管理計画を市民との協働により策定し、維持管理等につなげていきます。

■取組目標

15 か所

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	市民との協働により保全管理計画を策定しました。 保全管理計画策定：3 か所（累計 9 か所） （南本宿市民の森、瀬上市民の森、中田ふれあいの樹林）
平成 24 年度 (2012 年度)	市民との協働により保全管理計画を策定しました。 保全管理計画策定：5 か所（累計 14 か所） （下永谷市民の森、中田宮の台市民の森、深谷市民の森、荒井沢市民の森、横浜自然観察の森）
平成 25 年度 (2013 年度)	市民との協働により保全管理計画を策定しました。 保全管理計画策定：3 か所 （宮沢ふれあい樹林、鯉ヶ久保ふれあいの樹林、（仮称）新橋市民の森）

■3 か年の評価

・市民の森等で保全管理計画の策定が進み、樹林地の特性に応じた保全管理のあり方について、森づくり団体と共通の認識を持ちながら、維持管理を進めることができました。

成果に対する評価	○
----------	---



保全管理について協議
(瀬谷区/宮沢ふれあいの樹林)



保全管理計画検討会の様子
(戸塚区/深谷市民の森)

■課題と対応

保全された樹林地の質を維持・向上し、生物多様性に資するため、市民協働による保全管理計画の策定等を推進するとともに、作業の結果を調査・検証し、維持管理作業が継続的に行われることが必要です。

取組名	水田の保全・活用の推進
-----	-------------

■取組内容

農地が持つ、遊水機能、地下水涵養機能、ヒートアイランド緩和機能などの多面的機能を評価し、市民等との協働で農地管理、景観保全、活用等を図ります。また、減少する水田を保全するために、10年間の水稲作付の継続を条件に支援を行います。

■取組目標

多面的機能を持つ水田の保全 120ha

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	多面的機能を持つ水田の保全を推進しました。 水田保全承認面積 109.7ha
平成 24 年度 (2012 年度)	多面的機能を持つ水田の保全を推進しました。 水田保全承認面積 114.4ha
平成 25 年度 (2013 年度)	多面的機能を持つ水田の保全を推進しました。 水田保全承認面積 118.8ha

■3か年の評価

- ・事業の趣旨が浸透したことで、21年度から当初目標を大きく上回る進捗状況となっています。
- ・畑などへの転用による水田の減少に対して、一定の抑制効果があったと考えられます
- ・多くの市民が身近に水田の風景を見られる環境を享受できるとともに、温暖化の緩和や生物多様性の保全など、水田の持つ多面的な機能が発揮されました。

成果に対する評価	○
----------	---



夏の水田(青葉区)



秋の水田(保土ヶ谷区)

■課題と対応

- ・水田保全の手法としては有効であり、また、10年以上の水稲作付を承認の条件としていることから、制度の継続の必要性が高い
- ・水田所有者の高齢化が進んでおり、今後相続による水田保全の中止が増加することが予想されます。

取組名	集团的農地の維持管理奨励
-----	--------------

■取組内容

農地が持つ、遊水機能、地下水涵養機能などの環境面での役割を評価し、水利組合など地域の農地管理を行う団体に対し支援を行うことで、農地管理と景観の保全を図ります。

■取組目標

500ha

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	各種事業により支援を実施しました。 支援農地面積：622.6ha
平成 24 年度 (2012 年度)	各種事業により支援を実施しました。 支援農地面積：645.9ha
平成 25 年度 (2013 年度)	各種事業により支援を実施しました。 支援農地面積：676.3ha

■3か年の評価

- ・地域で農地の管理を行う団体への働きかけを行うことで、取組目標を大きく上回る進捗状況となっています。
- ・農地の保全活動に支援を行うことで、地域での水路清掃などの管理活動が活発になり、まとまりのある農地の環境が良好に維持されるとともに、田園風景としての農地の景観が向上しました。

成果に対する評価	◎
----------	---



団体支援 (戸塚区東俣野)



水路清掃 (瀬谷区上瀬谷)

■課題と対応

- ・この施策により、まとまりのある農地の環境の維持や、景観の質の向上が図られており、事業の必要性は高いです。
- ・すでに事業を実施している団体に対して、自主的な活動がさらに発展するように働きかけを続けます。

取組名	特定外来生物の防除
-----	-----------

■取組内容

外来生物法における特定外来生物であるアライグマやタイワンリスに対する取組を進めます。

■取組目標

継続的に推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	捕獲檻の貸出しなど各種取組を進めました。 ・アライグマの捕獲頭数：217 頭、タイワンリスの捕獲頭数：54 頭 ・捕獲檻の補充：アライグマ用 17 台、タイワンリス用 50 台 ・貸出し用捕獲檻の要望増加に対応し、大量に檻の補充を行いました。
平成 24 年度 (2012 年度)	捕獲檻の貸出しなど各種取組を進めました。 ・アライグマの捕獲頭数：191 頭、タイワンリスの捕獲頭数：130 頭 ・捕獲檻の補充：アライグマ用 2 台、タイワンリス用 5 台
平成 25 年度 (2013 年度)	捕獲檻の貸出しなど各種取組を進めました。 ・アライグマ捕獲数：235 頭、タイワンリス捕獲数：126 頭 ・捕獲檻の補充：アライグマ用 10 台、タイワンリス用 25 台

■3 か年の評価

市民の捕獲依頼に着実に対応するとともに、貸出用捕獲檻の購入等の捕獲支援を継続的に推進しました。

成果に対する評価	○
----------	---



アライグマ



タイワンリス

■課題と対応

タイワンリスの捕獲数が増加傾向にあります。対応として従来の捕獲檻貸し出しに加え、委託業者による捕獲檻の設置を開始しました。

取組名	生物多様性に配慮した公園整備
-----	----------------

■取組内容

公園の整備等において、植栽計画などにより、生物多様性に配慮した取組を進めます。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	公園緑地の整備に際し、現場条件に合わせ、小動物や昆虫などに配慮した樹種を選定し、植栽を行いました。
平成 24 年度 (2012 年度)	公園緑地の整備に際し、現場条件に合わせ、小動物や昆虫などに配慮した樹種を選定し、植栽を引き続き行いました。
平成 25 年度 (2013 年度)	公園緑地の整備に際し、現場条件に合わせ、小動物や昆虫などに配慮した樹種を選定し、植栽を引き続き行いました。

■3か年の評価

樹林のみならず湿地や草地も含め当該地にふさわしい動植物が生育するよう配慮しました。

成果に対する評価	○
----------	---



久良岐公園 (港南区)



小菅ヶ谷北公園 (栄区)

■課題と対応

整備後の維持管理計画の立案と実行のための体制 (予算) 確保が必要です。

取組名	公園における順応的管理の推進
-----	----------------

■取組内容

樹林地や水辺などのある自然豊かな公園において、順応的管理を推進します。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性に配慮した管理をしました。 ・生物多様性に配慮した維持管理研修を職員向けに実施し、順応的管理についての知識、技術の向上を図りました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・小雀公園や久良岐公園等において、各区域の環境に応じて管理方法を工夫し、生物にとってやさしい管理を行いました。 ・玄海田公園等においては、樹林地や自然生態園などゾーニングを行い、生物多様性に配慮した管理を進めています。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・各区域の環境に応じて管理方法を工夫し、生物にとってやさしい管理を行いました。

■3か年の評価

市内の自然豊かな公園において、適宜、生物多様性に配慮した管理を推進しました。

成果に対する評価	○
----------	---



生物多様性に配慮した草刈状況
久良岐公園 (港南区)



生物多様性に配慮した林床管理の状況
小雀公園 (戸塚区)

■課題と対応

- ・市内の自然豊かな公園において、生物多様性に配慮した管理を推進していきます。
- ・順応的管理の効果を確認するため、モニタリングのデータを集積し、広く情報共有を図ります。
- ・公園管理者として必要な知識と技術の習得を進めます。

取組名	生物多様性に配慮した河川・遊水池の管理
-----	---------------------

■取組内容

生物多様性に配慮した管理方法について関係局課によるプロジェクトで検討を行い、一部で試行します。

■取組目標

検討、試行実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	河川については、水辺愛護会と調整しながら、生き物に配慮した維持管理を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	河川については、水辺愛護会と調整しながら、生き物に配慮した維持管理を実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	河川については、水辺愛護会と調整しながら、生き物に配慮した維持管理を実施しました。また、雨水調整池について、ビオトープの維持管理手法を検討するプロジェクトを立ち上げ、研修会を実施しました。

■3か年の評価

雨水調整池ビオトープ維持管理について、プロジェクトを立ち上げ、生物多様性に配慮した維持管理研修会を実施しました。さらに、生物多様性に配慮した管理について、一部で実施しました。

成果に対する評価	○
----------	---



維持管理研修会（講座）



維持管理研修会（フィールドワーク）

■課題と対応

今後は、関係課と連携し、実動する土木事務所の意見を取り入れながら、生物多様性に配慮した維持管理手法を検討する必要があります。

取組名	水辺拠点整備
-----	--------

■取組内容

市民の憩いの場や活動の拠点としての水辺環境整備を進めます。

■取組目標

39 か所

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	・取組目標の達成に向け、水辺拠点の整備を進めています。 35 か所 (累計)
平成 24 年度 (2012 年度)	・取組目標の達成に向け、水辺拠点の整備を進めています。 35 か所 (累計)
平成 25 年度 (2013 年度)	・取組目標の達成に向け、水辺拠点の整備を進めています。 新規整備 3 箇所を整備、38 か所 (累計)、再整備 1 箇所

■3か年の評価

水辺拠点の整備を進めました。

成果に対する評価	○
----------	---



いたち川石原の水辺 (栄区)



奈良川水辺広場 (青葉区)

■課題と対応

計画通りに進めるための予算確保が必要です。

取組名	多自然川づくり
-----	---------

■取組内容

河川整備・改修において、周辺環境との調和に配慮した「多自然川づくり」を進めます。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・帷子川（旭区）において、川底の段差を解消し魚などが遡上しやすくするために、魚の遡上を助ける魚道整備を行いました。 ・舞岡川（戸塚区）において、河川改修を実施するにあたり、生物が定着しやすい環境づくりに配慮して、環境保全型ブロックを用いました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・平戸永谷川（港南区）において、川底の補強を実施するにあたり、生物が定着しやすい環境づくりに配慮して、多様な素材（自然石）を用いました。 ・舞岡川（戸塚区）において、河川改修を実施するにあたり、生物が定着しやすい環境づくりに配慮して、環境保全型ブロックを用いました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・舞岡川（戸塚区）において、河川改修を実施するにあたり、生物が定着しやすい環境づくりに配慮して、環境保全型ブロックを用いました。

■3か年の評価

生物の生息環境に配慮するなど、多自然川づくりを進めました。

成果に対する評価	○
----------	---



平戸永谷川（港南区）



帷子川魚道（旭区）

■課題と対応

引き続き、周辺環境との調和に配慮した「多自然川づくり」を進めます。

取組名	地域での水循環再生活動の促進
-----	----------------

■取組内容

地域での緑化活動や宅地内の緑や浸透ます等（エコな庭づくり）の普及啓発や湧き水調査などまちづくりによる水循環再生の活動を促進します。

■取組目標

- ・活動地区数 18 地区

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<p><地域での水循環再生活動> 区民まつり、地域の説明会や事業者向け説明会等で啓発を行いました。</p> <p><雨水貯留タンク設置助成> 助成対象区を設定し、制度を実施しました。 助成実績 149 個</p> <p><宅内雨水浸透ます設置助成> 新制度の実施状況を検証しました。助成実績 49 個</p>
平成 24 年度 (2012 年度)	<p><地域での水循環再生活動> 区民まつり、環境行動フェスタなど、計 13 回のイベントに出展し、普及啓発を行いました。</p> <p><雨水貯留タンク設置助成> 助成対象を全市としました。 助成実績 191 個</p> <p><宅内雨水浸透ます設置助成> 助成実績 41 個</p>
平成 25 年度 (2013 年度)	<p><地域での水循環再生活動> 環境行動フェスタなど、計 13 回のイベントに出展し、普及啓発を行いました。</p> <p><雨水貯留タンク設置助成> 助成対象を全市としました。 助成実績 287 個</p> <p><宅内雨水浸透ます設置助成> 助成実績 22 個</p>

■3か年の評価

- ・宅内雨水浸透ますは、平成 23 年度からの助成制度変更により、変更前と比べて設置個数が増加しました。
- ・イベントでは多くの市民に水循環について関心を持ってもらうことができました。

成果に対する評価	◎
----------	---



雨水貯留浸透施設模型



雨水浸透ます

■課題と対応

- ・助成制度の周知及びより効果的な設置促進方法の検討が必要です。

取 組 名	公園愛護会・水辺愛護会との連携
-------	-----------------

■取組内容

公園愛護会・水辺愛護会による清掃・除草活動等で公園・河川や水辺施設の環境を良好に保つとともに、市民が公園・水辺で自然とふれあい、そこにすむ生き物に親しむことができるよう、愛護会の自主的な活動を支援します。

■取組目標

- ・公園愛護会の団体数 2,430 団体
- ・水辺愛護会の団体数 100 団体

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・公園愛護会の団体数 2,397 団体 ・水辺愛護会については、河川や水辺施設の美化活動等を自発的に行う水辺愛護会(平成 23 年度末で 90 団体)を育成、支援し、水辺愛護精神の高揚を図りました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・公園愛護会の団体数 2,405 団体 ・水辺愛護会は、交流会を開催し、水辺愛護精神の高揚を図りました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・公園愛護会の団体数 2,417 団体 ・交流会を開催し団体の情報共有の場を設けることや活動エリアの拡大を働きかけることにより、愛護会(H25 年度末で 91 団体)の育成、支援及び水辺愛護精神の高揚を図りました。

■3か年の評価

- ・公園愛護会活動を支える支援策に区局連携し取り組み、愛護会相互の連携強化も促進しました。また、より環境が良好に保たれ、公園は地域住民の交流や憩いの場となっています。
- ・清掃・除草活動を行う水辺愛護会の活動エリアを拡大し、生物が棲みやすい水辺環境美化などに取り組みました。

成果に対する評価	△
----------	---



公園における花壇づくりの様子



水辺愛護会活動の様子

■課題と対応

- ・公園愛護会の活動を継続するため、世代間交流の促進等により、他世代の担い手の確保が求められています。
- ・水辺愛護会については、活動の継続が困難となっている箇所を新規や既存の団体に確実に引きついでいくために、区や土木事務所との連携を強化していく必要があります。

取組名	街路樹における樹種の配慮等
-----	---------------

■取組内容

樹種の選定・植栽方法の選択等に当たっては、歩行者や車両等の安全で円滑な通行の確保を基本に置きながら、外来生物法に指定された樹種は植栽しないなど、生物多様性にも配慮します。

■取組目標

実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	設置基準に基づき、外来生物法に指定された樹種は植栽しないなど、生物多様性にも配慮しています。
平成 24 年度 (2012 年度)	設置基準に基づき、外来生物法に指定された樹種は植栽しないなど、生物多様性にも配慮しています。
平成 25 年度 (2013 年度)	設置基準に基づき、外来生物法に指定された樹種は植栽しないなど、生物多様性にも配慮しています。

■3か年の評価

既に、設置基準に基づき植栽時に配慮しています。

成果に対する評価	○
----------	---



磯子アベニュー完成写真



根上がり対策工事で植栽したリュウノヒゲ

■課題と対応

今後も設置基準に基づき生物多様性に配慮した植栽を実施していきます。

取組名	地域緑のまちづくり
-----	-----------

■取組内容

緑の専門家を派遣し、地域での計画づくり等を支援するとともに、計画に基づく民有地と公有地の緑化について、整備から管理の費用を一部助成し、住宅地、商店街、オフィス街、工業地域などさまざまな地域にふさわしい緑化を地域ぐるみで推進します。

■取組目標

30 地区

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	地域にふさわしい緑化を地域ぐるみで推進しました。 地域緑化計画策定に取り組んだ地区数 12 地区 (累計)
平成 24 年度 (2012 年度)	地域にふさわしい緑化を地域ぐるみで推進しました。 地域緑化計画策定に取り組んだ地区数 15 地区 (累計)
平成 25 年度 (2013 年度)	地域にふさわしい緑化を地域ぐるみで推進しました。 地域緑化計画策定に取り組んだ地区数 16 地区 (累計)

■3か年の評価

- ・地域の実情にあわせた計画策定と合意形成に時間を要しましたが、積極的に地域と協働した取組を進めたことで、多くの地区で具体的な計画づくりや緑化整備が進みました。
- ・地域の緑化計画に基づく緑化活動が進み、住宅地から商業・業務地区まで、その地区ならではの緑のまちづくりが進むとともに、緑をテーマとした地域コミュニティ活動が盛んになりました。

成果に対する評価	△
----------	---



生麦新子安地区 (鶴見区)



牛久保西地区 (都筑区)

■課題と対応

- ・取組地区数を増やし、広く市民が緑化に取り組む機会をつくるには、これまでの取組地区での成果を広報していくことが必要です。
- ・多くの市民が緑のまちづくりに取り組み楽しんでいただくため、計画づくりの自由度を高めるなど多様なニーズに対応できる柔軟性が必要です。

取組名	民有地緑化の誘導等
-----	-----------

■取組内容

一定規模以上の敷地に建築を行う場合に緑化を義務付ける緑化地域制度等をはじめ、諸制度を効果的に運用し、かつ充実化を図ります。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	一定規模以上の敷地に建築を行う場合に緑化を義務付ける緑化地域制度等を運用し、民有地緑化を推進しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	一定規模以上の敷地に建築を行う場合に緑化を義務付ける緑化地域制度等を運用し、民有地緑化を引き続き推進しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	一定規模以上の敷地に建築を行う場合に緑化を義務付ける緑化地域制度等を運用し、民有地緑化を引き続き推進しました。

■3か年の評価

- ・計画当初の予定通り、緑化地域制度等を運用し、民有地緑化を推進しています。
- ・緑化地域制度により、建築行為と連動した確実な緑化を進めるなど、緑の量をふやすことに貢献しています。

成果に対する評価	○
----------	---



民有地緑化（鶴見区）

■課題と対応

- ・緑化地域制度の適用範囲を広げるためには、制度改正が必要であり、引き続き国に要請する必要があります。

取組名	都心部の公園などでの緑の創造
-----	----------------

■取組内容

都心部など、緑が不足している地区では、新たな緑の創造を、まちづくりとも連携しながら、積極的に推進します。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	環境創造審議会からの「市街地におけるみどりの創造のあり方について」の答申を受け、都心部での緑の創造の具体化の検討を進めました。
平成 24 年度 (2012 年度)	グランモール公園の再整備に向けた基本計画を策定したほか、東横線跡地での遊歩道整備、みなとみらい新港地区 8 街区、建替えを予定している区庁舎などで「実感できる緑」を創出にするため、計画策定や設計などを進めました。
平成 25 年度 (2013 年度)	グランモール公園の再整備に向けた基本設計を策定したほか、東横線跡地での遊歩道整備の一環として桜木町駅前広場の緑化や、重点的に緑化する 3 区庁舎（南、港南、金沢）の設計を進め、みなとみらい新港地区 8 街区、ブラフ 99 ガーデンについては一部整備が完了しました。

■3 か年の評価

市街地での緑の創出に向け、いくつかの場所で具体的な計画や設計が進みました。

成果に対する評価	○
----------	---



グランモール公園



新港地区 8 街区

■課題と対応

- ・市民が実感できる緑の創出とそれにもなう維持管理が課題となります。
- ・創出する緑を良好に管理するための仕組みづくりが必要であり、公共施設の所管部署との調整を進めます。

取組名	屋上緑化の推進
-----	---------

■取組内容

市街地のヒートアイランド現象緩和などに寄与する建築物（新築・既存）の屋上及び壁面緑化を推進します。

■取組目標

推進

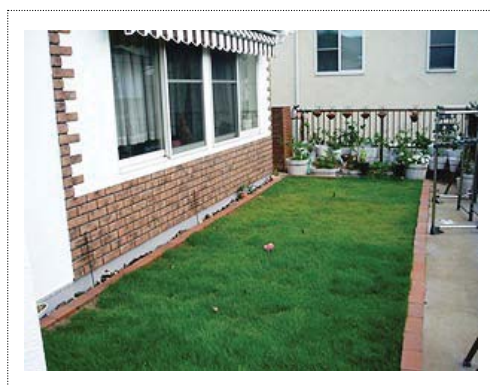
■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	屋上及び壁面緑化を推進しました。 助成件数 9 件（累計 40 件）
平成 24 年度 (2012 年度)	屋上及び壁面緑化を推進しました。 助成件数 12 件（累計 52 件）
平成 25 年度 (2013 年度)	屋上及び壁面緑化を推進しました。 助成件数 12 件（累計 64 件）

■3か年の評価

3か年で 33 件の助成を行っており、着実に実績があがっている。特に屋上緑化の助成が多く、ヒートアイランド現象緩和に寄与しています。市街地のヒートアイランド現象緩和などに寄与する建築物（新築・既存）の屋上及び壁面緑化を推進します。

成果に対する評価	○
----------	---



屋上緑化の様子（戸塚区）



屋上緑化の様子（南区）

■課題と対応

- ・制度がより活用されるよう、さらに維持管理に対する負担感を軽減する取組が必要です。
- ・民有地での緑化推進を、特に多くの市民の目に触れる場所で実績を積み重ねることにより、制度がさらに活用されるような、工夫が必要です。

取組名	京浜の森づくり
-----	---------

■取組内容

京浜臨海部の事業者等と協働して、市民に身近な緑の環境づくりを進めます。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・京浜臨海部における緑化活動の魅力伝えるエコ・ガイド講座 2 回、講習会を 2 回を実施しました。 ・子どもたちがドングリから育てた苗木を自ら植樹し、企業から小学生たちに環境活動への取組などを講義する「ドングリ学校」 6 校で実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・京浜臨海部における緑化活動の魅力伝えるエコツアー講座を実施しました。 ・子どもたちがドングリから育てた苗木を自ら植樹し、企業から小学生たちに環境活動への取組などを講義する「ドングリ学校」 2 校で実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・京浜臨海部における緑化活動の魅力伝えるエコツアー講座を実施しました。 ・子どもたちがドングリから育てた苗木を自ら植樹し、企業から小学生たちに環境活動への取組などを講義する「ドングリ学校」 2 校で実施しました。

■3か年の評価

- ・京浜臨海部で事業者による緑の取組が推進され、緑の質が向上しています。
- ・エコツアー等を通じて、市民に身近な緑として実感されています。

成果に対する評価	○
----------	---



エコツアー講座



植樹の集い

■課題と対応

・引き続き京浜臨海部の事業者や市民団体等と協働して、市民に身近な緑の環境づくりとともに緑の質を高める取組を進める必要があります。

取組名	身近な生き物に着目したまちづくり
-----	------------------

■取組内容

身近な生態系の保全の指標ともなりうるトンボや、生物多様性を楽しく理解できるミツバチ飼育などに着目したまちづくりの取組を市民やNPOとの連携により実施します。

■取組目標

5か所

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	関係団体との協働により取組みを推進しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	ミツバチやトンボに着目した取組を進める市民活動の助成及び既存団体との連携を 2 件行いました。
平成 25 年度 (2013 年度)	・トンボを指標に生物多様性の保全・再生を進める市民団体、企業、学校との連携を 1 件支援しました。また、環境活動助成金制度を活用し、トンボが生息できるビオトープづくりを支援しました。 ・小学校へ専門家を派遣し、ビオトープづくり及び活用を支援しました。

■3か年の評価

- ・環境活動助成金を活用し、チョウがくるビオトープづくりへの活動支援を行った。さらに、トンボを指標とした市民団体、企業、学校との連携事業を 7 件支援しました。

成果に対する評価	○
----------	---



トンボ調査の様子



飛来するトンボ

■課題と対応

市民団体が行うトンボやチョウなど身近な生き物による取組を市の環境情報サイト「エコぼると」やイベントなどで広く市民にPRしていくことが必要です。

取組名	鳥類の生き物探検 【重点アピール2】
-----	-----------------------

■取組内容

市内各地の環境特性により、見かけられる鳥類を示し、市民の皆さんに見つけてもらう取組です。この取組により、鳥類を生き物指標として活用する可能性を検討します。

■取組目標

2011年度から実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	試験運用版として実施した本事業を、種の選定及び同定方法など制度運用の向上を検討しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニミニ鳥図鑑を発行し、公園レストハウス等で配布しました。 (発行部数：30,000部) ・市内の公園施設スタッフを対象に、探鳥会実施に向けた研修会を実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関するイベント時や小学校に対してミニミニ野鳥図鑑を配布しました。 (100校、約13,000部配布) ・小学校において、「ミニミニ野鳥図鑑」をした授業を展開するため、専門家の派遣による出前講座を実施しました。

■3か年の評価

- ・ミニミニ野鳥図鑑を作成し、市内公園及び自然・文化体験施設等に配布するとともに、野鳥図鑑を希望する小学校に対して配布しました。
- ・施設職員を対象に探鳥会開催のための研修会を開催し、各施設での啓発が進められました。

成果に対する評価	○
----------	---



ミニミニ野鳥図鑑を活用した授業



ミニミニ野鳥図鑑

■課題と対応

- ・野鳥の観察をきっかけとして、今後多くの市民が生物多様性を学び、考える機会を提供していく必要があります。
- ・野鳥を始め、横浜に生息する生き物を対象に地域の自然環境についての意識啓発を進めていく必要があります。

取組名	生物調査データの一元化（データベース化）と活用 【重点アピール2】
-----	--------------------------------------

■取組内容

市民や企業による地域の生物調査データ、県や各種団体の持つデータ、そして横浜市による水域調査などの結果を蓄積、一元化（データベース化）し、分析・評価を行うことで施策に反映させます。また、データベースは公開し、市民が活用できるようにします。

■取組目標

データバンクの整備

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物関連の調査報告書リストをエクセルで作成、環境科学研究所が所有する報告書・論文 362 件のデータを入力。局内の 9 課から 70 件の調査報告書情報を収集しました。 ・水域生物相調査の魚類及び底生動物の調査結果について電子化・データベース化しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境科学研究所が過去に行った生物多様性に関する調査報告書リスト、生物相調査魚類等データベースについてHPに公開しました。 ・庁内調査報告書の一元化に向けた仕組み作りを検討しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・産学民官連携による研究会により、データバンクの構築について検討しました。 ・環境科学研究所が実施した生物多様性に関する調査報告書リスト、生物相調査魚類等データベースについて市ホームページにて公開しました。

■3か年の評価

- ・大学を中心とした産学民官連携による研究会により、各専門分野の検討をすることができました。
- ・環境科学研究所が所管する一部の調査資料データベースについて市ホームページにて公開を開始しました。また、その他の調査結果についても電子化・データベース化を進めています。

成果に対する評価	○
----------	---



大学を中心とした産学官連携研究会
設立記念シンポジウム

■課題と対応

調査手法の異なるデータの統一化や希少種の取扱いなど情報を精査し掲載する仕組みづくりの検討が必要です。

取 組 名	市民協働生き物調査の推進 【重点アピール2】
-------	---------------------------

■取組内容

市民提案などにより、地域固有の生き物調査を進めます。それらはデータベース化するとともに、例えば生き物マップなどの作成により、広く活用できるようにします。

■取組目標

2011年度から推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	平成 20～22 年度実施の市民協働生き物調査について、方法、結果をとりまとめ、今後の陸域生物（相）調査手法について検討を行いました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・陸域生き物専門家調査を実施しました。 ・小学生調査検討会を開催しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	陸域生き物専門家調査を継続して実施しました。 小学生対象アンケート調査、こども「いきいき」生き物調査を実施しました。

■3か年の評価

陸域について調査手法を検討し、専門家調査を平成 24 年度から開始しました。また、市民協働による調査手法の検討を行い、平成 25 年度から小学生による生き物調査、こども「いきいき」生き物調査を実施しました。

成果に対する評価	○
----------	---



陸域生物調査の調査項目



小学生生き物調査 調査票

■課題と対応

継続した調査の実施が必要です。情報の公開に向けての希少種等の取り扱いを取り決めたガイドラインの作成や得られた結果の効果的な発信について検討が必要です。

取組名	水域における生物調査 【重点アピール2】
-----	-------------------------

■取組内容

源流域、河川、海域における生物調査を継続的に実施します。

■取組目標

継続実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	市内を流れる河川の 6 水系（鶴見川、帷子川、大岡川、境川、宮川、侍従川）において、平成 23 年 7 月から 9 月に、魚類、底生動物、水草、付着藻類、水質の調査を実施しました。生物の生息状況を調べるとともに、生物指標を用いて水質評価を行いました。
平成 24 年度 (2012 年度)	鶴見川河口、山下公園、海の公園等の河口・海岸域と横浜港沖等の内湾において、秋季（H24.11）と冬季（H25.1）に生物調査を実施しました。魚類、海岸動物、海草・海藻、プランクトンの調査を平成 25 年度の春季と夏季にも行い、一年を通して生物の生息状況を把握し、生物指標を用いて水質評価を行います。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・海域生物モニタリング調査を実施しました。（春・夏） ・H24, 25 年度調査結果を「横浜の川と海の生物（第 13 報・海域編）」として取りまとめた。

■3 か年の評価

継続的な調査により、河川における外来種の増加、分布の拡大等の生物多様性に関わる基礎的な情報が得られました。

成果に対する評価	○
----------	---



石に付いた藻をアユが食べた跡



川の生き物調査地点マップ

■課題と対応

継続した調査を実施し、得られるデータを蓄積することによる分析・評価が必要です。さらに、得られた調査結果を効果的に発信することが必要です。

取組名	地区特性に応じたしくみの検討 【重点アピール6】
-----	-----------------------------

■取組内容

緑の10大拠点を中心とした「生物多様性保全推進地区」など、地区の特性に応じた生物多様性の保全、再生、創造のしくみについて検討します。

■取組目標

- ・2011年度から検討
- ・2013年度から仕組みづくり

■主な事業実績

平成23年度 (2011年度)	しくみづくりの方法、進め方について検討しました。
平成24年度 (2012年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・国連大学高等研究所と「横浜市都市の生物多様性指標を活用した都市政策推進事業実施協定書」を締結し、横浜市における生物多様性指標について、共同研究を実施しました。 ・大学とITを活用した共同研究において検討を進めました。
平成25年度 (2013年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・産学民官連携による研究会により、生物多様性の評価手法についての検討を進めました。

■3か年の評価

- ・生物多様性の保全・再生・創造等を進めていく上で指標となる都市における生物多様性の指標を検討しました。
- ・大学を中心とした産学官の生き物調査の研究会に参加し、専門性の高い生物分野の評価フレームや、IT分野での活用方法について検討することができました。

成果に対する評価	△
----------	---



横浜みどり税を活用した緑地の指定

■課題と対応

- ・地域の状況に応じて、生物多様性の保全・創造・再生を進めていくため、地域ごとに生物多様性の評価が求められる中、その手法の検討が必要です。
- ・みどりアップ計画に位置付けられた取組により、地域ごとの緑や生物多様性の保全が求められます。

取組名	横浜市 ISO 環境マネジメントシステムへの反映
-----	--------------------------

■取組内容

各区局統括本部による生物多様性に配慮した取組を横浜市 ISO 環境マネジメントシステムに反映させるとともに、所属ごとに意見交換や共有化を行うことで、市役所全体で率先して生物多様性の取組を進めます。

■取組目標
推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境行動目標に、新たに「生物多様性の取組推進」の項目を設けました。 ・横浜市 ISO 環境マネジメントシステムの一環である「総合環境研修」において、生物多様性に関する映像を作成し、それを用いて研修を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市 ISO 環境マネジメントシステムの一環である「総合環境研修」において、生物多様性の基礎知識とともに市役所の業務で実践できる取組例を紹介しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境行動目標に「生物多様性の取組の推進」の項目を設定し各所属の業務にあった取組を実施しています。 ・全所属を対象とする「総合環境研修」において、生物多様性についての教材を作成し、職員の生物多様性の理解を進めています。

■3か年の評価

- ・環境行動目標に基づいて、地産地消に関する研修や清掃活動など様々な取組が実施されました。
- ・総合環境研修では生物多様性の基礎知識だけでなく、取組事例などを紹介し、職員の取組を促進しました。

成果に対する評価	○
----------	---



総合環境研修 (生物多様性)



大岡川 (大久保最戸地区) での
クリーンアップ

■課題と対応

職員の生物多様性の理解がまだ不十分なため、引き続き啓発を進めていきます。

取組名	エキサイトよこはま22における環境取組の推進
-----	------------------------

■取組内容

身近な空間での緑地整備、再生可能エネルギーの積極的な導入、河川空間と調和のとれた空間づくりなど計画づくりを進めます。特に、先行している（仮称）横浜駅西口ビル計画においては、積極的な環境取組を誘導します。

■取組目標

（仮称）横浜駅西口ビル計画における積極的な環境取組の誘導・緑化の推進

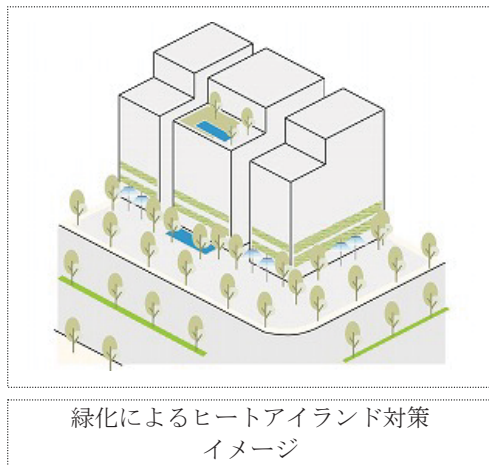
■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）横浜駅西口駅ビル計画の環境取組について事業者と協議を実施、事業者におけるアセス手続きが完了しました。 ・環境検討部会を8月に設立し、地球温暖化対策及びヒートアイランド対策に関するルール素案を作成しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	エキサイトよこはま22エリアにおける環境ガイドラインの改定を実施し、CO ₂ 排出ルールやヒートアイランド対策における定量的評価指標の活用、緑化の推進などを位置づけました。
平成 25 年度 (2013 年度)	平成 24 年度に改定したエキサイトよこはま22環境ガイドラインの基準に従い、会議時の活用や印刷物の作成等により、横浜駅西口駅ビル事業者等への周知などを行いました。

■3か年の評価

緑化の推進や定量化指標としてのCO₂排出ルール策定のために、エキサイトよこはま22環境ガイドラインの改定作業を進め、平成24年度に改定を実施しました。その後は、改定ガイドラインの周知等を行っています。

成果に対する評価	○
----------	---



■課題と対応

各事業計画確定に向け調整が必要です。

取組名	みなとみらい 21 地区における環境取組の推進
-----	-------------------------

■取組内容

積極的な緑化等の環境整備に取り組むとともに、横浜スマートシティプロジェクトの取組を進めるなど、市民・事業者と連携した生物多様性にもつながるまちづくりの取組を推進します。

■取組目標

- ・横浜スマートシティプロジェクトの推進
- ・緑化の推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜ワールドポーターズに次世代型 BEMS を導入しました。 ・横浜三井ビルディング、みなとみらいグランドセントラルタワー、横浜ランドマークタワーが統合 BEMS に接続しました。 ・みなとみらい 5 号線街路樹の緑化工事の実施しました。 ・桜木町駅前広場改修整備（緑化）の基本設計の作成しました。 ・街路樹改修整備（緑化）の実実施設計の作成しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<p>CEMS、BEMS、HEMS、FEMS、蓄電池 SCADA 等を連系し、システムの試運用を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HEMS 約 1300 件を新規に導入しました。 ・桜木町駅前広場街路樹の植栽工事の実施しました。 ・みなとみらい 5 号線街路樹の植栽工事の実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・CEMS と BEMS, HEMS, FEMS, 蓄電池 SCADA 等を連系し、システムの試運用を実施しました。(市域全体で HEMS 約 1500 件を新規に導入しました) ・桜木町駅前広場街路樹やみなとみらい 3・5 号線街路樹の植栽工事を実施しました。

■3 か年の評価

- ・横浜スマートシティプロジェクトの取組としては、予定どおり進んでいます。
- ・緑化の推進、としては桜木町駅前広場及びみなとみらい 3・5 号線を緑化しました。

成果に対する評価	○
----------	---



みなとみらい 3 号線の街路樹



みなとみらい 5 号線の街路樹

■課題と対応

- ・まちの賑わいに寄与するような緑化づくりに向けた官民協働の仕組み等の検討が必要です。
- ・街路樹の適切な生育環境を確保するため、維持管理に必要な財源の確保が必要です。

取組名	京浜臨海部の海づくり 【重点アピール5】
-----	-------------------------

■取組内容

末広地区での「京浜の森と海」づくりとして、礫浜の活用や渡り鳥の営巣地づくり等を企業等と連携して進めます。

■取組目標

着手

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	各種調査（水質・底質・生物相）を実施するとともに、護岸構造に着目し、基礎割石の活用や生物付着性基盤の検討しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	平成 24 年度は平成 23 年度に引き続き、海域の水質、底質、生物相といった基礎調査を実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	北部下水センター護岸前面の礫浜部に生物相の付着基盤として人工干潟をモデル的に設置しました。

■3か年の評価

生物の付着状況や維持管理の検証のためにモデル的な人工干潟を設置することができました。

成果に対する評価	○
----------	---



北部下水道センター護岸の現況



水質・底質・生物相の調査

■課題と対応

基礎調査の結果、波の影響などにより既存の護岸構造のままでは、生物の定着が難しいことがわかりました。今後、環境に適した生物の定着を目指しやその維持管理方法について検討を進めます。

取組名	都心臨海部の海づくり 【重点アピール5】
-----	-------------------------

■取組内容

都心臨海部の魅力づくりとして、山下公園前で水質浄化を進めます。都心部の河川・海域と水域利用、まちづくりとの連携、トライアスロンなどイベントでの活用など、多様な海の活用へつなげます。

■取組目標

水質浄化に着手

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な実施計画を策定するために必要な海域の流況および水塊構造を把握する調査を実施しました。 世界トライアスロン大会プレイベントに参加し事業PRを行いました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> 平成 23 年度の調査を踏まえ、事業化に向け関係局との調整を実施しました。 世界トライアスロン大会プレイベントに参加し事業PRを行いました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験に向けた関係局との調整を実施しました。 民間企業との共同研究による生物生息環境の改善効果を検証する研究を開始しました。 国際トライアスロン大会のプレイベントであるグリーントライアスロンに出展し、パネル展示や海中実況中継等を行いました。

■3か年の評価

山下公園前の海域において各種調査（海域の水塊、流況等）により海域の特性を捉える基礎データの収集を行い、民間企業との共同研究による生物の生息環境の改善効果を検証する研究を開始しました。

成果に対する評価	○
----------	---



二枚貝による水質浄化展示



イベントでの事業PR

■課題と対応

定期的なモニタリング調査の実施し、生物の生息環境改善による種の豊富さの評価方法を検討していきます。

取組名	金沢の歴史と文化の海づくり 【重点アピール5】
-----	----------------------------

■取組内容

本市唯一の自然の砂浜である野島海岸の再生を進めます。野島を含めた金沢地区は、市民連携の海づくりが活発なエリアであり、海づくりの一層の活性化につなげます。

■取組目標

野島海岸の再生
プログラムの策定

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	野島公園などで環境活動を実施している市民団体にヒアリングを行い、課題抽出および現状把握を行いました。
平成 24 年度 (2012 年度)	野島公園などで環境活動を実施している市民団体からのヒアリングで抽出された課題の解決策を検討するとともに、イベントや意見交換会を実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民団体と連携した環境啓発イベントの開催と意見交換等の実施や漂着ごみ等の収集・処分体制を構築しました。 ・階段護岸、園路、トイレ整備による市民活動団体が活動しやすい場の創出や砂浜の減砂調査を実施しました。

■3か年の評価

市民団体との連携イベントの開催を通じ、野島周辺の海域生物展示や生物による水質浄化のPRにより多くの市民へ自然環境の大切さを発信できた。また、海岸美化につながる取組みとして市民団体と連携した収集・処分の体制構築や階段護岸、園路などの整備による活動しやすい場づくりを実施するなど、野島海岸の魅力向上につながる取組みを推進するとともに、砂浜の減砂調査もあわせて実施した。

成果に対する評価	○
----------	---



意見交換会



イベントでの事業PR

■課題と対応

市民活動団体が主体となった環境啓発イベントの開催が求められます。

取組名	企業の環境行動の広報
-----	------------

■取組内容

企業が主体的に行う地球温暖化対策や生物多様性などの取組について、行政が積極的に広報します。

■取組目標

2011年度から順次実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	生物多様性庁内説明会、「ヨコハマbデイ 2012・冬」において、企業による講演を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	「ヨコハマbデイ 2013・春」において、企業による講演を実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	・ヨコハマ環境行動フェスタのステージイベントに企業等が参加し、行政と一緒に広報を行いました。

■3か年の評価

- ・事例発表など、企業の取組事例を発表してもらう場を複数回設けることができました。
- ・横浜環境活動賞により、企業が行う環境に関する取組を表彰するとともに広報を行いました。

成果に対する評価	△
----------	---



企業の環境活動に関する発表
(「ヨコハマbデイ 2012・冬」)



ヨコハマ環境行動フェスタ 2013
ステージイベント

■課題と対応

- ・活動賞受賞団体の取組について、イベントなどを通して広く市民向け広報ができる場の設定が求められます。
- ・活動賞などと合わせて、企業の環境活動を盛り上げる取組を今後も進めていく必要があります。

取組名	企業の環境行動の表彰制度
-----	--------------

■取組内容

従来の企業の表彰制度について、企業のインセンティブにつながるよう、見直しを進めます。

■取組目標

新たな表彰制度の導入 (2011 年度)

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	横浜環境活動賞として、5 団体、3 企業、3 学校 (計 11) を表彰しました。また、新たに「生物多様性特別賞」を設定し、2 団体を表彰しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	横浜環境活動賞として、9 団体、9 企業、4 校 (計 22) を表彰しました。また、生物多様性特別賞として 1 団体を表彰しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	・横浜環境活動賞の募集を行いました。企業の部の申し込みが、8 社あり、審査委員会を 2 回開催しました。

■3か年の評価

- ・横浜環境活動賞に、多くの企業の申込み、受賞がありました。
- ・表彰式にあわせて、企業の取組事例紹介の場を作るとともに、企業同士及び市民団体等とのポスターセッションによる交流の場を設定し、情報共有を図りました。
- ・第 21 回横浜環境活動賞 (平成 25 年度) から、表彰式を平成 26 年 6 月の環境月間と合わせて開催し、受賞団体の活動内容を広く市民に PR する場を設けることとしました。

成果に対する評価	○
----------	---



企業の環境活動に関する表彰
(第 19 回横浜環境活動賞表彰式)



企業の環境活動に関する表彰
(第 20 回横浜環境活動賞表彰式)

■課題と対応

- ・企業を対象とした、表彰制度のさらなる周知が必要です。
- ・企業の取組む環境活動を PR するため、発表や交流の機会を拡充する必要があります。

取組名	企業とのコミュニケーション
-----	---------------

■取組内容

企業が持つ様々な意見等について、横浜市環境保全協議会などの場を活用した対話づくりを積極的に進めます。

■取組目標

2011年度から順次実施

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜環境活動賞の表彰とあわせて、先進的な取組を行う企業の取組発表を行いました。 ・横浜市環境保全協議会、横浜商工会議所と連携し、「子ども省エネ大作戦！2011」を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜環境活動賞の表彰とあわせて、企業・団体等がポスターセッションによる交流を行いました。 ・横浜市環境保全協議会、横浜商工会議所と連携し、「こども『エコ活。』大作戦！2012」を実施しました。 ・企業敷地内のビオトープを活用し、職員等を対象に生物多様性に関する研修を実施しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業に向け、生物多様性の取組みを行うためのパンフレットを作成しWEBに掲載しました。 ・横浜市環境保全協議会、横浜商工会議所と連携し、「こども『エコ活。』大作戦！2013」を実施しました。

■3か年の評価

横浜環境活動賞の表彰式にあわせて、企業の取組事例紹介の場を作るとともに、市民団体等とのポスターセッションによる交流の場を設定し、情報共有を図りました。

成果に対する評価	○
----------	---



こども『エコ活。』大作戦！2013 結果発表会



企業敷地内のビオトープを活用した研修

■課題と対応

中小企業に向け作成したパンフレットを活かし、生物多様性に取組もうとしている企業の抱える問題の相談、実践にあたり支援等を行っていく必要があります。

取組名	産学民官連携による共同研究
-----	---------------

■取組内容

企業を中心に、研究機関や市民活動団体、行政等が連携して生物多様性に関する共同研究を行うことで、より効果的な施策・事業を展開します。

■取組目標

推進

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	国連大学高等研究所との共同研究に向けた調整を実施しました。
平成 24 年度 (2012 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・国連大学高等研究所と都市の生物多様性指標に関する共同研究を実施しました。 ・大学と企業が連携したプロジェクトに参加し、ITを活用した生物調査データベースづくりについて検討しました。
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・国連大学への委託により、都市におけるエコロジカル・ネットワーク形成に関する事例調査を実施しました。 ・産学民官連携による研究会により、データベースの構築や生物多様性の評価手法などについて検討を進めました。

■3か年の評価

研究機関や民間企業と連携することにより、生物多様性に関する指標に関する研究やデータベースの構築など、専門性の高い内容の検討を進めることができました。

成果に対する評価	○
----------	---



国連大学高等研究所で開催された
ラウンドテーブルセミナー



産学民官連携による研究会の様子

■課題と対応

生物多様性に配慮した政策を推進するために、得られた成果を踏まえ専門性の高い生物多様性に関する調査・研究等を継続していく必要があります。

取組名	食と農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルへの支援制度の創設
-----	----------------------------------

■取組内容

農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルの構築を目指し、企業等からの地産地消の提案事業に対し、支援制度を創設します。

■取組目標

6件

■主な事業実績

平成 23 年度 (2011 年度)	農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルの構築を目指した支援を行いました。(支援件数 3 件) <ul style="list-style-type: none"> ・「地産地消」をお届けサービス ・横濱小龍包販売事業 ・横濱うお時における地産地消ブランディング化計画
平成 24 年度 (2012 年度)	農によるまちの活性化と新たなビジネスモデルの構築を目指した支援を行いました。(支援件数 4 件) <ul style="list-style-type: none"> ・地場野菜を使った地産地消惣菜店 ・横濱市産大麦を使った発泡酒造り ・横濱開港菜等を使用した菓子類の開発及び販売開拓事業 ・横濱うお時における地産地消ブランディング化計画 2012
平成 25 年度 (2013 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ・H23、24 に支援した事業の検証と評価しました。 ・地産地消ビジネスの事例紹介のパンフレット作成し、配布しました。

■3か年の評価

平成 H23、24 年度において当初の 4 カ年計画の目標である支援件数 5 件を上回る 7 件の事業に支援を実施しました。平成 25 年は過去 2 年の事業に対する検証を実施しました。

成果に対する評価	◎
----------	---



横濱開港菜等を使用した菓子類の開発
及び販路開拓事業



地場野菜を使った地産地消惣菜店

■課題と対応

支援実施した各事業の実態と課題が明確になり、支援実施前の育成支援の重要性を認識しました。

横浜市環境創造局政策調整部政策課

平成 26 年 9 月

横浜市中区港町 1 - 1

TEL : 045-671-2484

FAX : 045-641-3490